

一般社団法人映像情報メディア学会
第 6 9 回 定 時 社 員 総 会 資 料

2 0 2 3 年 5 月 2 6 日 (金) 1 4 時 ~

於 機械振興会館 + オンライン

一般社団法人映像情報メディア学会
第69回定時社員総会式次第

開催日時：2023年5月26日（金）14：00～16：00（予定）

会 場：機械振興会館6階6D-1, 2, 3会議室 + オンライン

議 長：伊丹 誠会長 司 会：川田亮一総務理事

式 次 第：

- ① 会長挨拶（伊丹 誠会長）
- ② 開会の辞（岩城正和副会長）
- ③ 第1号議案：2022年度事業報告（川田亮一総務理事）
- ④ 第2号議案：2022年度決算報告（志水信哉会計理事）
- ⑤ 第3号議案：2022年度監査結果（出葉義治監事）
- ⑥ 第4号議案：2023年度役員の選任（苗村 健副会長）
- ⑦ 第5号議案：名誉会員の推薦
- ⑧ 報告事項1：2023年度事業計画（山下誉行総務理事）
- ⑨ 報告事項2：2023年度予算計画（上原伸一会計理事）
- ⑩ 選奨選考結果（川田亮一総務理事）
- ⑪ 賞状賞牌贈呈
- ⑫ 受賞者代表挨拶
- ⑬ フェロー認定（山下誉行総務理事）
- ⑭ フェロー認定証の贈呈
- ⑮ 退任役員代表挨拶（伊丹 誠会長）
- ⑯ 退任役員への謝辞（苗村 健副会長）

====休憩、この間に臨時理事会開催=====

（総会再開） 司 会：山下誉行総務理事

- ⑰ 2023年度役員担務の報告（苗村 健副会長）
- ⑱ 新会長挨拶（児玉圭司新会長）
- ⑲ 閉会の辞（吉田俊之副会長）

以上

2022年度事業報告

1. 総括（担当：川田総務担当理事）

1946年に高柳健次郎委員長のもと「テレビジョン同好会」として発足した本会は、1955年の社団法人化、1996年の「映像情報メディア学会」への改称を経て、映像情報メディアに関する学理ならびに技術の進歩向上、普及をはかることを目的に活動を行っています。会員間の交流はもとより、専門家集団として社会に貢献しております。映像情報メディアは、メディアの中核を担うものとして、映像に関わる機器、システム、方式等、広範な領域の学問、技術を含む総合技術であり、また近年、コンテンツに関する技術も取り込み、活動範囲を一層拡大しています。具体的には、機関誌、論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会等のさまざまな事業活動を行っています。これらの事業活動には、理事会のほか、専門の分野を担当する委員会を設置して、その円滑な運営に努めてきました。

本年度は、2022年5月の総会において、下記の基本施策を設定して学会活動を進めてきました。

- (1) 学会の活性化
- (2) 新分野の開拓
- (3) 広報活動と会員サービスの拡充

2022年度の終了を迎え、上記の各計画項目の達成状況は以下のようになりました。

<2022年度事業計画と達成状況>

(1) 学会の活性化

2022年度の学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとして目的ごとに設置した11の委員会を実行部隊とし、理事会との情報共有を密に図りながら活動を進めていくというものでした。各委員会が活動の中心となり、それぞれ2021年度に取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら活発な学会活動と課題解決に取り組みました。

理事会に関しては、全理事および監事が出席する定例理事会を8回開催しました。当初は新型コロナウイルス感染症の終息を予想し、対面／ハイブリッド開催を増やす見込みでしたが、残念ながら完全には終息しきれず、全8回ともリモート開催といたしました。しかしながらその分、各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議するとともに、支部長や代表代議員の参加も得ることができ、理事、支部、代議員一体となった運営を進めることができました。

2022年度の学会予算としては、研究会等の対面／ハイブリッド開催が増えることを予想し、赤字予算(約1200万円)の編成でスタートしました。結果としてテストチャートの頒布収入の年度当初からの堅調な伸び、資産運用益等による経常収益増、年次大会、総会、理事会等オンライン開催による会議費支出減、各支部からの戻入等による経常費用の減により、最終的には約252万円の黒字で着地しました。

学会活性化の最重要課題である会員増のため、昨年度改定されたアカデミックパートナー制度を最大限活用して、特に若手研究者の会員増に取り組みました。同制度は、大学や高等専門学校等の研究室単位で会員登録できる制度です。従来は年間4万円で10名までの学生を登録可能でしたが、半額のLITE版、及び逆により多くの人数を登録可能なEXTENSION版が追加になっています。本制度は他学会からも注目される本会の特長の一つとなっています。現在、アカデミックパートナー登録研究室は24研究室であり、多くの学生さんに学会に興味を持っていただくきっかけとなっています。引き続き会員諸氏には本制度を広く周知いただければ幸いです。

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として、2022年度も年8回、各支部長または支部長代理に理事会へ参加して頂き、理事会での動きを把握して頂くとともに、本部役員が支部大会に参加して直接対話することで、意識の共有を図りました。ともに、昨年度に引き続きオンライン開催となったため、face to faceの直の意見交換がやりづらいという欠点はありませんでしたが、場所・時間による制限が少ないという利点を最大限に活用しました。このように年次大会・冬季大会・支部大会等の機会を活かし、本部と地方支部の運営や課題の共有を行いました。

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については、4K・8K映像の超高精細・広色域HDR版標準動画像(Cシリーズ)が引き続き好評を博しております。しかしながら2022年4月より新たに頒布開始したCシリーズ第2版(HDR効果を際立たせたもの)は、いまだ引き合いがなく、更なる周知が必要です。一方、3次元マルチチャネル音響標準音源Bシリーズとして、オブジェクトベース標準音源の制作を検討してまいりましたが、2022年度は具体的な制作方針の決定には至りませんでした。透過型/反射型ハイビジョンテストチャートなどのハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像、超高精細・広色域標準動画像Aシリーズ/Bシリーズについては引き合いが続いています。

(2) 新分野の開拓

新分野の開拓としては、スポーツ情報処理研究委員会が本格的な活動を開始しました。2022年度は2回の研究会を開催し、うち1回は地方開催としました。また、立体映像技術研究委員会から改称した新生・立体メディア技術研究委員会は、6回の研究会を開催しました。さらに、新たな分野開拓のため、持続可能な社会へ向けたイノベーションをテーマとした研究会も開催しました。研究会は、2021年度はコロナ禍の影響により、ほぼオンライン開催でしたが、2022年度の開催数は前年度とほぼ同等でありつつ、ハイブリッド開催が大幅に増加しました。

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携も引き続き強化しました。IEEEとのMOU(Memorandum of Understanding)締結の継続により、研究委員会とIEEE Japan Councilとの連携開催をいたしました。また、韓国放送メディア技術学会(KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との協力を継続し、KIBME FALL CONFERENCE 2022開催時に基調講演とJOINT SESSION開催に協力しました。また、米国SIDとともに第28回ディスプレイ国際ワークショップ(IDW2022)を福岡で開催しました。国内の関連4学会(電子情報通信学会・電気学会・情報処理学会・照明学会)との関係維持にも努め、連絡協議会は対面で実施、懇親会も開催しました。

学会誌においては、「インフォデミック時代のAIとサイバーセキュリティ」など、今後ますます重要となるAIとセキュリティ等の新規テーマの特集を組みました。

年次大会では、福島イノベーション・コースト構想推進機構の取組についてのセッションを企画したほか、「2021年“熱かった夏”を振り返る」と題して東京五輪の放送・通信技術について紹介しました。冬季大会では、放送におけるAIの活用について紹介するセッションや、体育・スポーツ教育DXのための情報処理技術の解説を実施しました。

(3) 広報活動と会員サービスの拡充

各種SNSや学会ホームページ(本部・支部)、メーリングリストを通じた情報発信は、有効な広報手段として2022年度も積極的に活用しました。業界紙への広告出稿等、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開しました。

また図書の企画・刊行活動の一環として、学会誌掲載の連載講座や連載シリーズの単行本化や、学会ホームページでの公開を検討し、「知っておきたいキーワード」「年報」「きらり。中のヒト」「研究開発ツール」「話題；見聞記」「報告」「ベンチャービジネス」の各欄を、学会ホームページにアクセス制限なしで全文公開しました。今後も継続します。

素晴らしい成果を上げている会員の方々に対し、奨励・表彰を行いました。具体的には、丹羽高柳賞(功績賞2名、業績賞2件、論文賞4編)、鈴木記念奨励賞(4名)、技術振興賞(進歩開発賞[現場運用部門]3件、進歩開発賞[研究開発部門]1件、コンテンツ技術賞3件)、映像情報メディア未来賞(1件)、優秀研究発表賞(12名)の各賞を贈呈しました。また、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された会員の中から、本会フェローを1名選定しました。さらに、長年にわたり在会いただいた会員の方の会費を無料とする「ライフメンバー制度」についてはライフメンバー自身による講演会、セミナー、見学会などの自主的な活動を可能とする組織化を含めて引き続き検討することといたしました。

以上の施策を通じて、2022年度も学会の活性化と新分野の開拓、広報と会員サービスの充実に取り組んできました。例年8月に開催してきました年次大会は2020年、2021年と東京五輪関連で2年続けて中止となりましたが、3年振りに福島県郡山市で対面(ハイブリッド)で開催予定でした。しかし新型コロナウイルスの影響が予想以上に長引いたためオンライン開催とし「耐える」状況が続きました。しかしながら冬季大会ではついに対面(ハイブリッド)開催により再開することができました。各研究会の単位ではハイブリッド開催が一般的となり、ポストコロナの新たな標準となりつつあるように感じます。特に発表者として参加すると、発表時の質疑応答のみならず、その後の休憩時間等に得られる議論や情報交換が大変貴重な機会であり、これは対面開催ならではのものと実感いたします。このように2022年度も本会は、協賛団体と会員各位のご理解・ご協力のもと、計画されていた事業を概ね遂行することができました。引き続き、変化し続ける社会情勢に対応しつつ、映像情報メディアに関する技術分野の発展に貢献してまいります。会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2022年度に設置された11の委員会のアクションプランの設定内容と達成状況を以下に示します。

① 広報委員会（担当：徳田企画担当理事）

広報活動として、年次大会、冬季大会、研究会、支部主催セミナー、その他の学会事業活動の告知、学会主要頒布品であるテストチャートの販促をホームページ、SNS (Facebook, Twitter)、メールマガジン (年間 109 通発行) により適宜情報発信を行いました。大会関連では業界紙による年次大会、冬季大会の事前告知と実施後の開催状況を掲載し会員以外にも大会の成果を PR することができました。

また、(一社)日本技術者連盟が運営する「All Japan 学協会連携 IC (Innovation Co-Lab) サークル活動」に参画しました。これにより世界の先端テクノ動画データ約 400 万本を収録、公開している「Web Knowledge Xpo」(WKX)を本会個人会員は無料で利用可能となり、研究・開発成果を自ら動画にて配信することも可能となりました。

② 年次・冬季大会実行委員会（担当：倉掛調査担当理事）

2022 年映像情報メディア学会年次大会は、実行委員会（委員長 岩城正和）において 8 月 24 日（水）～8 月 26 日（金）の 3 日間の日程で、オンライン形式にて開催されました。年次大会実行委員会としては、準備のための委員会を 2 回、振り返りの委員会を 1 回実施しています。当初の計画では、郡山市中央公民館・勤労青少年ホームの会場と Zoom を併用したハイブリッド開催の予定でしたが、7 月中旬から 8 月中旬にかけて全国的に新型コロナ感染者数が急増したため、8 月中旬の段階で急遽オンライン開催に変更となりました。一般講演 15 部門 81 件、フェロー記念講演 1 件の他、企画イベントとして企画セッション 4 テーマ計 15 件で構成され、発表件数としては前回の冬季大会（2021 年度は年次大会がなかったため 3 日間）より小規模な年次大会となりましたが、各セッションの参加者の延べ人数は増加しており、セッションあたりの平均が 30 名を超えた大会となりました。大会がリアル（オフライン）開催であれば、第 55 回鈴木記念奨励賞、および学生優秀発表賞の表彰式が行われるはずでしたが、オンライン開催となり表彰式を行えなかったため、各セッション開始までの休憩時間帯に Zoom 画面上で受賞者の紹介を繰り返し行うこととしました。本会研究委員会を中心に、新しい分野や新しい視点による企画セッションを多数企画・運営いただいたおかげで、セッションあたりの参加者数が前回大会と比較して改善しました。また、前回大会で指摘された「聴講者からの質問がリアル開催と比べて比較的少ない」という傾向についても、各セッション運営者側の工夫などで改善されたとの意見が聞かれました。

2022 年映像情報メディア学会冬季大会は、実行委員会（委員長 苗村健）において、12 月 22 日（木）、12 月 23 日（金）の 2 日間の日程で、東京理科大学 森戸記念館とオンラインのハイブリッド形式にて開催されました。ハイブリッド形式による大会はこの冬季大会が初のケースでした。述べ参加人数は、479 名で、うち会場が 212 名、オンライン参加が 267 名と、どちらからもバランスよくご参加いただいた形となりました。冬季大会実行委員会としては、準備のための委員会を 2 回、振り返りの委員会を 1 回実施しています。一般講演 11 セッション 91 件、企画講演 3 セッション 15 件、フェロー記念講演 2 件で構成され、年次大会よりも多くの一般講演を集めることができました。セッションの運営形態として「副座長」制を導入したセッションからは、質疑応答が活性化したという意見が多く聞かれました。

③ 編集委員会（担当：橋本編集担当理事）

学会員の満足度を向上させる企画作りと情報提供の強化に向けて、定期的に行われる編集委員会および部門委員会で、様々な観点から学会誌の在り方および提供情報内容について検討・議論を行い、施策を進めました。

学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、多様な学会員のニーズに応えるとともに、より充実した情報内容の提供を心がけました。利便性を高めるため Web ページからダウンロードによる会誌閲覧を可能にするとともに、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対するタイムリーでコンスタントな情報提供を図りました。

<各部門の検討内容と結果>

(1) 会誌部門

学会誌のページ数を考慮したうえで、会誌アンケート、代議員モニタ、支部長会議、研究委員会等からの要望を汲み取り、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに十分にえられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とするとともに、記事間のバランスにも配慮した編集方針で運営し、今年度（2022 年 5 月号～2023 年

3月号)は、特集34編、技術解説や話題記事20編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。学会内の様々な委員会やイベントと会誌の相乗効果によって、学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、昨年度に引き続いて学会内の様々な委員会やイベントと会誌の連動企画を検討し、今年度は冬季大会との連動記事を掲載しました。また、学会誌に新しい魅力を加えるべく、新連載講座「映像符号化技術の進展」を2023年3月号から開始しました。さらに、学会誌の電子化に関して編集委員会委員の意向を把握する目的で行ったアンケートの結果について議論を行うと共に、他学会等の状況を踏まえて検討を行いました。

(2) 海外文献部門

海外文献部門委員会は、文献公開用のシステム運用・管理者(部門委員長)が昨年度からの長期療養のため、公開作業が出来ず、文献調査等の作業も行えないため、部門委員会を休会し、会誌に掲載の海外文献紹介も休載としましたが、今年度から文献紹介を会誌に掲載すべく、文献調査方法の見直しを行い、作業を開始しました。見直しにより、今後文献調査はメール審議で行い、Webでの公開を行わず、学会誌のみで文献紹介を行うことといたしました。

(3) ニュース部門

ニュース部門委員会は、例年どおり、記事選定等の審議はメール審議で行いました。2022年「国際放送機器展見聞記」は昨年同様オンタイムで開催され、担当者が取材を行い、2023年3月号に掲載いたしました。NHK技研公開の見聞記は、昨年はオンラインのため、企画は見送りましたが、2022年はオンタイムで開催され、担当者が取材を行い、2022年9月号に掲載いたしました。

④ 論文委員会(担当:河合編集担当理事)

2022年度の論文委員会の構成は、藤井俊彰委員長(和文論文編集委員会委員長、MTA編集委員会委員長兼務)、和文論文編集委員会副委員長の安藤慎吾委員と宮崎勝委員、MTA編集委員会副委員長の大川裕司委員と加藤晴久委員、編集担当理事(1年目)の河合吉彦委員、編集長の谷口行信アドバイザーの7名でした。幹事には、安藤慎吾委員が指名されました。

6月の新体制後の委員会では、運営方針や体制、投稿数・特集提案状況などの確認を行うとともに、論文投稿数増加への施策や和文論文誌掲載料の改定、査読結果に対するクレーム処理、会員への論文投稿に関するアンケート調査結果について検討を行いました。また、論文編集委員の追加招聘についても検討しました。

10月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、査読期間を定めた論文特集の企画、和文誌掲載料の改定、採択論文の翻訳版の作成と公開について検討しました。和文誌・MTA編集委員専門分野分布の確認と不足分野へのメンバー追加についても検討しました。

2月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、論文賞候補として、和文論文・MTA論文からそれぞれ3編、合わせて6編の論文を選定し、選奨委員会へ提出しました。また、和文論文と英文論文の相互翻訳、査読システムに登録中の査読者リストの管理・表示方法について検討しました。

(1) 和文論文関係

・2022年度(2022年5月号~2023年3月号の計6号)は、19編の論文等を掲載しました(論文8編、動画付き論文1編、動画付き招待論文1編、フィールド論文1編、招待フィールド論文4編、研究速報2編、特集巻頭言2編)。(参考:2021年度の掲載数は論文24編(招待論文3編含む)、フィールド論文5編(招待フィールド論文4編含む)、研究速報2編、特集巻頭言2編)

・論文掲載に必要なコストおよび他学会の掲載料を確認し、和文論文誌の掲載料について具体的な値下げ案を作成し、理事会で承認を得ました。

(2) MTA関係

・2022年度(2022年7月号~2023年4月号の計4号)は、35編の論文等を掲載しました(論文30編、招待論文1編、特集巻頭言4編)。(参考:2021年度の掲載数は29編(論文21編、招待論文5編、特集巻頭言3編))

⑤ 技術委員会(担当:倉掛調査担当理事)

今期3回オンライン開催し、本会の研究委員会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

各研究委員会の活動状況および今後の予定を確認するとともに、調査研究費支出状況を確認するなどして、各研究委員会間の情報共有を進めました。昨期の研究会活動はコロナ禍の影響により、ほぼオンライン開催でしたが、今期は開催数は昨期とほぼ同じで、ハイブリッド開催、現地開催が大幅に増えました。技術委員会では、各研究委員会がハイブリッド開催をより円滑に進められるようにするため、ハイブリッド開催の事例を共有するとともに、事務局でのハイブリッド開催用機材購入について議論しました。

調査研究費の各研究委員会への配分方法を検討しました。配分方法は例年どおり活動実績連動型式とすることとした上で、研究会の発表件数、研究委員会提案の特集論文の投稿数を、活動実績評価項目に追加するかどうかについて検討を進めることを確認しました。

「優秀研究発表賞」選考の確認を実施しました。その中で、メディア工学研究委員会と映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会から同一の発表が受賞対象として選考されていましたが、当該発表の申込先がメディア工学研究委員会であったことを確認した上で、メディア工学研究委員会からの受賞とし、映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会側は、次点候補を繰り上げ受賞とすることを決定しました。選考規程が古く、上記のケースについて、両研究委員会それぞれの次点候補を繰り上げ受賞させるように解釈できる文面であったため、事務局作成改定案（誤解を与える可能性のある表現の修正案）を確認し、優秀研究発表賞選奨規程の改定について承認しました。

今期のアクションプランの大きなトピックは、研究会完全電子化（技術報告冊子体廃止）に向けたトライアルの実施でした。2023 年度より技術報告冊子体と CD を廃止することが決定しているため、2022 年度は、これに替わる新サービス「技報アーカイブ」の無料トライアルを、冊子体年間購読者に提供した上で、トライアル登録者へのアンケートを実施し、提供価格案を検討しました。希望する 2 研究会の技報を送付しているアカデミックパートナー会員への対応などを考慮した上で、研究会年間登録および技報アーカイブ（図書館、資料室、研究室向けのサービス）の価格設定の技術委員会案を決定し、理事会の承認を得ました。

アカデミックパートナー登録学生会員を主な対象としたオンライン見学会を開催しました。2022 年 10 月 4 日に開催した放送技術研究委員会主催「テレビ局の仕事がイメージできる～TBS 局員から聞く 放送・配信システムと最新技術の話～」には学生 43 名、一般 40 名、TBS スタッフ 20 名の参加がありました。TBS テレビの若手技術者による局内・放送所設備・バーチャル演出 XR などの最新技術の説明を受け参加学生からは多数の質問が寄せられ放送局の仕事への関心を多くに高めることができました。

⑥ 選奨委員会（担当：川田総務担当理事）

学会選奨規程に基づき丹羽高柳賞については、功績賞 2 名、業績賞 2 件、論文賞 4 編、鈴木記念奨励賞については 4 名を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）3 件、進歩開発賞（研究開発部門）1 件、コンテンツ技術賞 3 件、映像情報メディア未来賞 1 件を選定しました。

2022 年度も 2021 年度に引き続き、選考はオンライン会議形式で実施しました。従来課題となっていた発表時の動画再生や事前送付資料、投票方法については、これまでの改善の結果、スムーズに実施できるようになりました。同様に「他賞への応募がふさわしい」ような応募事例も特段見当たらず、改善が進みました。一方で、近年の応募数の減少については今回もその傾向が続いており、今後も周知の拡大を図っていく必要があります。

なお従来、本会では受賞者に敬称として「君」を付けて学会誌等に掲載してきましたが、これに関して会員より「目下に対して使われる用語でもあるため誤解を生むのでは」との指摘がありました。これに関し選奨委員会で検討し、他の多くの学会に合わせ「君」を無しとすることとしました。

⑦ フェロー選定委員会（担当：山下総務担当理事）

フェロー選定委員会では、申継事項やアクションプランはなく、昨年度見直されたフェロー選出規定 13 条第 1 項「単年度に選出されるフェロー会員の数については、正会員および名誉会員の合計数の 0.2%程度を上限とする。」にのっとり、推薦のあった候補者から 2023 年はフェロー 1 名を選出しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため第 1 回、第 2 回フェロー選定委員会ともオンラインの開催となりました。

⑧ テストチャート委員会（担当：倉掛調査担当理事）

テストチャート頒布事業は、学会の財政面からも非常に重要な事業です。2022 年 4 月に頒布を開始した超高精細広色域 HDR 版標準動画像第 2 版について、既に HDR 版第 1 版購入者に割引頒布の周知を行いましたが引き合いはありませんでした。さらなる第 2 版の特徴の PR を進めることが重要です。また、高フレームレート HFR 版標準動画像 D シリーズについてはニーズのヒアリングを継続してきました。昨今の XR、メタバースの隆盛を受けてハイフレームレート映像へのニーズが高まってきており、2023 年度は引き続きニーズの調査をすすめる必要があります。22.2 マルチチャンネル標準音源 B シリーズの制作については、2022 年度の進捗はありませんでしたが、オブジェクトベース音源の実用化が進んでおり、ニーズのヒアリングを継続し、必要に応じ体制を構築し、制作スケジュール等の計画を策定した上で推進する必要があります。なお、テストチャート映像・音声制作検討は ARIB 評価シーケンス作業班、ARIB 音声作業班と連携して進めてきました。

⑨ 国際会議検討委員会（担当：徳田企画担当理事）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本会の活性化や会員サービスの向上につとめました。

IEEE との MOU 締結継続を IEEE の新フォーマットに基づいて実施しました。

KIBME (韓国放送メディア学会) が 2022 年 11 月 18 日に開催した「KIBME FALL CONFERENCE 2022」では、「Sensing Technologies」をテーマとするジョイントセッションを本会が企画開催し、本会より基調講演 1 件と KIBME、ITE から各 3 件の一般講演を実施しました。

ブラジル SET (ブラジルテレビジョン学会) との具体的な活動はありませんでした。

⑩ 映像情報メディア発展事業資金運営委員会（担当：志水会計担当理事）

本委員会では、1) 国際学会における学生発表の資金援助、2) 映像情報分野の発展に貢献できる企画への資金活用、3) 他委員会と連携した映像情報メディア発展事業に寄与する施策検討、を課題とし、活動を計画しておりました。しかしながら、昨年度同様 2022 年度においても新型コロナの流行の影響により、映像情報メディア発展に寄与する活動が制限され、資金を活用する機会もほとんどなく、資金活用の申請も 2 件に留まりました。

・委員会活動

- 2022 年 6 月 21 日に電気通信大学大学院椎名真梨氏から国際学生発表援助申請を受領。7 月 5 日の技術委員会の承認を受け、7 月 11 日に 7 月 15 日を締切としたメール審議を実施。反対意見はなく、本申請を承認。7 月 27 日 第 2 回理事会にて援助申請の承認を報告
- 2022 年 9 月 21 日に宇都宮大学大学院 小林聖奈氏から国際学生発表援助申請を受領。10 月 4 日の技術委員会の承認を受け、同日に 10 月 11 日を締切としたメール審議を実施。反対意見はなく、本申請を承認。10 月 26 日 第 3 回理事会にて援助申請の承認を報告

・国際学生発表援助申請／活用内容

- 申請者（所属）：小林聖奈（宇都宮大学大学院）
発表国際会議（開催地、期間）：SIGGRAPH ASIA (Daegu, 2022/12/6-9)
発表論文題目：Stereoscopic Transparent Display Visible with Naked Eye
援助金額：50,000 円
- 申請者（所属）：椎名真理（電気通信大学大学院）
発表国際会議（開催地、期間）：SIGGRAPH (Vancouver, 2022/8/8-11)
発表論文題目：Effects of Font Type and Weight on Reading in VR
援助金額：50,000 円

次年度委員会には、1) の継続はもとより、With コロナを想定した 2)、3) の施策を他委員会と連携して検討していただくことを期待する。

⑪ 長期計画検討委員会（担当：川田総務担当理事）

ライフメンバー制度発足について現行の会費無料制度を基本に発足することを検討しましたが、ライフメンバー会員自らが自主的に活動可能な組織化を行うことが重要であることから引き続き検討を進めることとしました。

2022年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2023年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	準会員	合計
2022年4月始	43	2178	256 (224)	172 (849 口)	33	14	2696
入会 (変更) 退会 (死亡) 復会 資格喪失		71 -172 2 -15	57 (24) -53 (-39) 1	-5 (-7口)	2 -3	32 -14	162 -247 3 -15
増減		-114	5	-5 (-7口)	-1	18	-97
2023年3月末	43	2064	261 (209)	166 (841 口)	32	18	2584

*アカデミックパートナー登録研究室：24研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 谷口行信）において、「映像情報メディア学会誌」第76巻第3号通巻842号～第77巻第2号通巻847号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計17,740部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回，年次企画委員会を3回（コロナウイルス感染予防により，すべてリモート会議）開催いたしました。

海外文献部門委員会は，文献公開用のシステム運用・管理者（部門委員長）が昨年度からの長期療養のため，公開作業が出来ず，文献調査等の作業も行えないため，部門委員会を休会し，会誌に掲載の海外文献紹介も休載としたが，今年度から文献紹介を会誌に掲載すべく，文献調査方法の見直しを行い，作業を開始しました。見直しにより，今後文献調査はメール審議で行い，Webでの公開行わず，学会誌のみで文献紹介を行うことといたしました。

ニュース部門委員会は，例年どおり，記事選定等の審議はメール審議で行いました。2022年「国際放送機器展見聞記」は昨年同様オンタイムで開催され，担当者が取材を行い，2023年3月号に掲載いたしました。NHK技研公開の見聞記は，昨年はオンラインのため，企画は見送りましたが，2022年はオンタイムで開催され，担当者が取材を行い，2023年9月号に掲載いたしました。

また企画委員会には，海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し，会誌部門と海外文献・ニュース両部門の3部門間での情報共有を密に行い，一般読者にもわかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今年度特集は，基本1テーマで企画し（但し良いテーマがあれば2テーマ），ページ数を厳守しつつ，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また年次・冬季大会や研究会で発表される最新情報の提供を行うべく，大会企画セッション，特別講演などから企画をピックアップし，特別寄稿，解説記事への掲載を検討いたしました。さらに記事内容の理解度を深めるため，図のモノクロ掲載を推奨しつつ，作成費を考慮しながら，必要に応じ図のカラー掲載をいたしました。

①J-STAGEを介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分も，継続して発行後2カ年を経て，全文公開を行います。

②「ベストアーティクル賞」および「ベスト動画コンテンツ優秀賞」の選定について

会誌1月号～11月号に掲載の記事を対象に、会誌アンケート結果の得票数を基に割り出した評点により、両賞ともに一次選考を行いました。選考により、ベストアーティクル賞は、各号ごとに上位3件程度（同得点の場合は考慮）の20件を、ベスト動画コンテンツ優秀賞は、上位4件（例年上位3件を二次選考対象としているが、今回は公開コンテンツ全4件）を二次選考対象とし、企画委員会メンバーにより二次投票を行いました。その結果、ベストアーティクル賞は次の4件、ベスト動画コンテンツ優秀賞は次の1件を選定いたしました。受賞者にはオリジナル図書カードを進呈するとともに、ホームページ上で公表しました。

〔ベストアーティクル賞〕

- ・1月号＜特集B＞「鉄道を支える映像情報技術」
「1. 鉄道のドライバレス自動運転の国際的技術動向と日本での実用化に向けた取組」
（東京大学 古閑隆章氏）
- ・5月号＜特集＞「VR/AR/MR 研究における最前線」
「4. 高速プロジェクタとダイナミックプロジェクションマッピングの進化」
（東京工業大学 渡辺義浩氏）
- ・7月号＜特集＞「特集 インフォデミック時代のAIとサイバーセキュリティ」
「1. フェイクメディア克服の最前線」
（国立情報学研究所 越前 功氏、大阪大学（現福井工業大学） 馬場口登氏、
東京工業大学 笹原和俊氏）
「4. AIの信頼性を高める Explainable AI」
（大阪大学 中島悠太氏・理 良知氏・王 博史氏）

〔動画コンテンツ優秀賞〕

- ・5月号＜特集 VR/AR/MR 研究における最前線＞
「4. 高速プロジェクタとダイナミックプロジェクションマッピングの進化」
（東京工業大学 渡辺義浩氏）

③海外文献部門委員会

海外文献部門委員会は、文献公開用のシステム運用・管理者（部門委員長）が昨年度からの長期療養のため、公開作業が出来ず、文献調査等の作業も行えないため、部門委員会を休会し、会誌に掲載の海外文献紹介も休載としたが、今年度から文献紹介を会誌に掲載すべく、文献調査方法の見直しを行い、作業を開始しました。見直しにより、今後文献調査はメール審議で行い、Webでの公開行わず、学会誌のみで文献紹介を行うことといたしました。

④ニュース部門委員会

ニュース部門委員会は、例年どおり、記事選定等の審議はメール審議で行いました。2022年「国際放送機器展見聞記」は昨年同様オンタイムで開催され、担当者が取材を行い、2023年3月号に掲載いたしました。NHK技研公開の見聞記は、昨年はオンラインのため、企画は見送りましたが、2022年はオンタイムで開催され、担当者が取材を行い、2023年9月号に掲載いたしました。

⑤その他の新しい試み

- (a) ＜講座＞「映像符号化技術の進展」の連載を2023年3月号より開始しました。
- (b) 今年度も総務省関連の記事を年1～2件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。
- (c) 選奨受賞関連記事の企画について
丹羽高柳賞＜功績賞＞、＜業績賞＞の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を9月号に掲載しました。今後も引き続き行います。
- (d) 大会との連携を目的に、2021年冬季大会＜企画セッション1＞「ボリュメトリックスタジオの最新動向」での講演内容をもとに、企画の検討を行い、「ボリュメトリックや自由視点映像の最新（仮）」と題して＜技術解説＞欄で企画することといたしました。
（執筆者：北原 格（筑波大）先生）
- (e) 「映像情報メディア年報2021シリーズ」について
9の研究委員会により、2021年1月号から連載企画を開始し、2022年7月に終了しました。また「映像情報メディア年報2023シリーズ」も連催企画をすることとし、10の研究委員会により、2023年1月号から連載企画を開始し、2024年7月終了予定。
- (f) 学会HPでの全文公開について
アクセス制限なしで＜知っておきたいキーワード＞＜年報＞＜きらり。中のヒト＞＜研究開発ツ

ール><話題；見聞記><報告><ベンチャービジネス>の各欄を，学会HPに全文公開いたしました．今後も継続いたします．

- (g) 研究委員会，支部との連携強化をはかるため，会誌企画は例年通り各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました．今年度は研究委員会題目提案1件、支部題目提案5件を会誌に掲載いたしました．今後も引き続き提案依頼を行います．

⑥2022年5月号～2023年3月号の特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2022. 5	特 集	VR/AR/MR 研究における最前線	5	28
2022. 7	特 集	インフォデミック時代の AI とサイバーセキュリティ	6	35
2022. 9	特 集A	3次元音響	3	17
	特 集B	AI と放送	5	20
2022. 11	特 集	有機 EL ディスプレイ用材料・デバイスの最新動向	5	27
2023. 1	特 集	イマーシブディスプレイ	5	21
2023. 3	特 集	社会に役立つセンシング技術	5	21

⑦2022年5月号～2023年3月号の講座，てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月 号	欄 名	連 載 テ ー マ	掲載回数	連載時期
2022. 5, 7, 9, 11 2023. 1	講座	量子コンピューティング	全 6 回	2022 年 3 月から継続 2023 年 1 月終了
2023. 3	講座	映像符号化技術の進展	全 6 回	2023 年 3 月から開始 2024 年 1 月終了予定
2023. 1, 3	映像情報メディア年報 2023 シリーズ		全 10 回	2023 年 1 月から開始 2024 年 7 月号終了予定
2022. 5, 7, 9, 11 2022. 1, 3	てれび・さろん	知っておきたいキーワード	全 151 回	2006 年 6 月から開始
—		私の研究開発ツール	全 110 回	2007 年 7 月から開始
—		名誉会員からのメッセージ —次代を担う若者に向けて—	全 29 回	2008 年 8 月から開始
2022. 3 2023. 3		標準化現場ノート	全 43 回	2010 年 4 月から開始
—		メディアウォッチ	全 28 回	2012 年 1 月から開始
2022. 5, 7, 9, 2023. 1, 3		きらり。中のヒト	全 10 回	2021 年 5 月から開始
2022. 9		異業種での映像情報メディア	全 38 回	2015 年 1 月から開始
—		私の日本滞在記	全 23 回	2015 年 11 月から開始
2022. 5, 7, 9, 11 2023. 1, 3		思い出の 1 枚	全 35 回	2017 年 1 月から開始
2022. 5, 7, 9, 11 2022. 1, 3		研究ハイライト	全 37 回	2017 年 3 月から開始
—		ベンチャービジネス	全 17 回	2018 年 1 月から開始

⑧2022年5月号～2023年3月号の会誌各欄のページ数

欄 名	頁数	欄 名	頁数	欄 名	頁数
年頭インタビュー	11	話 題；見聞記	17	ベンチャービジネス	0
ふおーかす	5	講 座	37	メディアウォッチ	0
お祝い文	0	年報シリーズ	22	報 告	34

追悼文	0	名誉会員からのメッセージ	0	ニュース	22
受賞者・役員紹介	11	私の研究開発ツール	0	海外文献収録	4
目次	18	知っておきたいキーワード	19	学会からのお知らせ	47
特別寄稿	8	標準化現場ノート	9	学会だより	13
講演	0	きらり。中のヒト	17	総目次	6
特集本文	169	異業種での映像情報メディア	6	論文目次	5
技術解説	43	私の日本滞在記	0	英語論文目次	4
研究動向	0	思い出の1枚	6	合 計	642
話 題	54	研究ハイライト	55		

注) 他に、「新刊図書」4冊、「広告」10.5頁、「カタログ同封サービス」1件、「技術資料」0頁、「メールニュース広告」配信0回、「バナー広告」0件。

(2) 論文関係

論文委員会（委員長 藤井 俊彰）において、「和文論文誌」第76巻第3号～第77巻第2号の計6号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第10巻第3,4号、第11巻第1,2号の計4号を、下記のとおり J-STAGE を介したオンラインジャーナルとして公開しました。

今期の論文委員会は年3回の委員会開催に加えて、e-mail 等を活用して効率的な運営を致しました。

- ① 和文論文誌 Word 原稿論文の掲載料値下げ
和文論文誌の投稿数増加の施策として、他学会の論文誌と比べても高額であった和文論文誌 Word 原稿掲載料の値下げについて検討をしました。他学会の掲載料等を踏まえた値下げ案を2022年12月21日開催の理事会に提案して、承認が得られたため、2023年2月以降に投稿された論文より改訂価格を適用することとしました。
- ② 査読期間を定めた「短期査読論文特集」の企画
早期公開を希望する著者や博士課程の学生からの投稿を見込む論文特集について検討を行い〔投稿締切：2023年5月31日・第一回査読結果報告：2023年8月8日まで〕とした「短期査読論文特集」を企画し、論文募集を開始しました。また、論文募集案内では①の「和文論文 Word 原稿論文の掲載料値下げ」についても記載することで、より効果的な周知となるようにしました。
- ③ 「技術委員会での論文特集企画提案依頼
投稿数減少の要因である論文特集企画の減少への対策として、技術委員会（2022年7月6日・11月1日開催）にて各研究委員会の委員長に論文特集提案の依頼をしました。
- ④ 2022年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定
和文・MTA 各3編の推薦文を起票し、委員会席上にて最終候補論文とすることを決定しました。推薦文の最終確認を行った後に、選奨委員会に提出しました。
- ⑤ 和文論文⇔英語論文相互翻訳
サーキュレーションの向上および、執筆言語を制約された状況で論文執筆を行った著者や、読者の双方に有益であるという観点から、和文・英文のいずれかで投稿され査読を経て採録・公開された論文を、もう一方の言語に翻訳し、アーカイブ的な位置づけ（学会のオフィシャル出版物の対訳版で、主のものが別にある）で公開することを検討しています。公開先は学会ホームページを候補として、公開までのプロセス等について確認しました。翻訳版の試作を行うため、翻訳・レイアウト作成ツール（Readable 等）の使用料金を次年度予算に計上しました。
- ⑥ 和文誌・MTA 編集委員専門分野分布の確認と不足分野へのメンバー追加
査読遅延等を避けるため、和文誌・MTA 編集委員で不足する分野の編集委員を追加することとしました。
- ⑦ 査読システムに登録中の査読者について
論文査読にて臨時編集委員のご担当をいただいた方より「該当分野の査読者が前から変わらず、最近の事象への対応が難しくなっているように思います」というご指摘があり、対応について検討しました。査読委員制度は2014年に廃止しましたが、既登録の査読者は選択肢のひとつとして査読システムの登録を残したという経緯があります。2014年以降は、担当編集委員が査読者を選定し、より専門性の高い方へ直接依頼が行える形ではありますが、選択肢は多いことが望ま

しいため、現在登録中の査読者の削除は行わず、査読システム上のリスト表示順（近年の査読件数が多い順など）の変更で対応することとしました。

⑧2022年5月号～2023年3月号の論文特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2022. 11	論 文 特 集	ディスプレイ IDW' 21 を中心にー	(1) , [1]	(6), [10]
2023. 1	論 文 特 集	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文	【4】 , [1]	【20】 , [5]

() は論文, [] は動画付き論文, [] は動画付き招待論文, **【 】** は招待フィールド論文

⑨2022年5月号～2023年3月号 オンラインジャーナルのページ数

欄 名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻 頭 言 (特 集)	2 (2)
招 待 論 文	0 (0)
動画付き招待論文	5 (1)
招待フィールド論文	20 (4)
論 文 (一 般)	55 (7)
(特 集)	6 (1)
動画付き論文 (一 般)	0 (0)
(特 集)	10 (1)
フィールド論文 (一 般)	10 (1)
(特 集)	0 (0)
研 究 速 報 (一 般)	8 (2)
(特 集)	0 (0)
動画付き研究速報 (一 般)	0 (0)
(特 集)	0 (0)
これすぽんでんす	0 (0)
合 計	116 (19)

⑩英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2022. 7	Special Section	Multimedia Transmission Technology and Its Applications	3	30
2022.10	Special Section	IDW '21	5	32
		Extended Editions of IEEE ICCE and ICCE-Taiwan Submitted Papers	5 【1】	55
2023. 4	Special Section	3D Media Technologies	9	66

【 】 内は Invited Paper

⑪2022年7月号・10月号, 2023年1月号・4月号

英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」の ページ数

欄 名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	4 (4)
Invited Paper (Special Section)	11 (1)
Paper (Special Section)	172 (22)
Paper (Regular Section)	78 (8)
合 計	265 (35)

(3) 大会・講習会・講演会論文集（予稿集）関係

- ・ 2022年年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行
- ・ 2022年冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行

(4) 研究会資料（技術報告）関係

巻 号	発行年月日	発行部数	備 考
V o l . 4 6	2 0 2 2 年		特になし
N o . 1 5	5 月 1 2 日	1 4 0 部	
N o . 1 6	〃 6 月 2 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 7	〃 6 月 3 日	1 3 0 部	〃
N o . 1 8	〃 6 月 9 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 9	〃 6 月 2 2 日	1 2 0 部	〃
N o . 2 0	〃 7 月 1 5 日	1 0 0 部	〃
N o . 2 1	〃 7 月 2 1 日	1 4 0 部	〃
N o . 2 2	〃 7 月 2 2 日	1 0 0 部	〃
N o . 2 3	〃 8 月 1 日	1 2 0 部	〃
N o . 2 4	〃 8 月 1 日	1 0 0 部	〃
N o . 2 5	〃 8 月 2 6 日	1 4 0 部	〃
N o . 2 6	〃 8 月 2 6 日	1 1 0 部	〃
N o . 2 7	〃 9 月 2 日	1 2 0 部	〃
N o . 2 8	〃 9 月 6 日	1 1 0 部	〃
N o . 2 9	〃 9 月 1 5 日	1 2 0 部	〃
N o . 3 0	〃 1 0 月 6 日	1 4 0 部	〃
N o . 3 1	〃 1 0 月 1 0 日	1 1 0 部	〃
N o . 3 2	〃 1 0 月 2 0 日	1 0 0 部	〃
N o . 3 3	〃 1 0 月 2 1 日	1 1 0 部	〃
N o . 3 4	〃 1 0 月 2 3 日	1 0 0 部	〃
N o . 3 5	〃 1 1 月 3 日	1 4 0 部	〃
N o . 3 6	〃 1 1 月 1 7 日	1 3 0 部	〃
N o . 3 7	〃 1 1 月 1 8 日	1 3 0 部	〃
N o . 3 8	〃 1 1 月 1 8 日	1 0 0 部	〃
N o . 3 9	〃 1 1 月 3 0 日	1 2 0 部	〃
N o . 4 0	〃 1 2 月 1 日	1 0 0 部	〃
N o . 4 1	〃 1 2 月 5 日	1 2 0 部	〃
V o l . 4 7	2 0 2 3 年		
N o . 1	1 月 1 9 日	1 0 0 部	〃
N o . 2	〃 1 月 1 9 日	1 4 0 部	〃
N o . 3	〃 1 月 2 8 日	1 1 0 部	〃
N o . 4	〃 1 月 3 0 日	1 2 0 部	〃
N o . 5	〃 2 月 9 日	1 4 0 部	〃
N o . 6	〃 2 月 1 4 日	1 3 0 部	〃
N o . 7	〃 2 月 1 5 日	1 0 0 部	〃
N o . 8	〃 2 月 2 5 日	1 0 0 部	〃
N o . 9	〃 2 月 2 7 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 0	〃 2 月 2 7 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 1	〃 3 月 3 日	1 4 0 部	〃
N o . 1 2	〃 3 月 8 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 3	〃 3 月 1 0 日	1 0 0 部	〃
N o . 1 4	〃 3 月 2 0 日	1 2 0 部	〃

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 伊東 晋）は、今期3回オンライン開催し、本会の研究委員会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期も、昨期に引き続きコロナ禍の影響により、例年12月冬季大会期間中に開催している技術交流会が中止となったため、「優秀研究発表賞」（受賞者12名）の授賞式も取り止めとなり、表彰状・賞牌は郵送いたしました。また、受賞者の顔写真と概要を会誌2023年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

今期より常設研究委員会として設置されたスポーツ情報処理研究委員会は、研究会を2回開催いたしました。

昨期、2023年度からの研究会完全電子化（技術報告冊子体・CD廃止）を決定し、今期、冊子体技報年間購読者に対し、技報オンライン配付システム（技報アーカイブ）をトライアルとして無料提供いたしました。また、2023年度からの新サービスの提供価格を決定いたしました。

（2）研究委員会

次表に記載の10の研究委員会において、それぞれ研究会活動を推進いたしました。

昨期はコロナ禍の影響により、ほぼオンライン開催でしたが、今期は開催数は昨期とほぼ同じで、ハイブリッド開催、現地開催が大幅に増えました。

今期は「技術報告」を41分冊およびCD-ROM1部を出版いたしました。

委 員 会 名	委員長名	開催数	海外	備 考
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一	7（2）		
情報ディスプレイ研究委員会	石 鍋 隆 宏	5（0）		
マルチメディアストレージ研究委員会	町 田 賢 司	4（4）		
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一	9（7）		
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大	4（2）		
メディア工学研究委員会	新 井 啓 之	7（3）		
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	名 手 久 貴	5（1）		
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	上 田 哲 三	1（0）		
立体メディア技術研究委員会	掛 谷 英 紀	6（0）		
スポーツ情報処理研究委員会	角 田 貢	2（1）		

（ ）付数字は地方開催数。

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

（1）年次大会

実行委員会（委員長 岩城正和）において、次の通り企画開催いたしました。当初福島県郡山市でオンライン併用のハイブリッド開催を予定しておりましたが、開催直前に新型コロナウイルス感染者が急増した影響により、急遽オンライン開催に変更いたしました。

会 期 2022年8月24日（水）～26日（金）

会 場 オンライン（Zoom使用）

一般講演 15セッション（80件）

企画講演 4セッション（13件）／フェロー記念講演：1件

参加者数 193名（聴講99名、一般発表80名、企画セッション関係者14名）

技術交流会 実施せず

2022年年次大会セッション、講演件数、座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	表示関連材料・物性・製造技術	4	樋口昌芳（物材機構）	
2	メディア工学1	6	望月貴裕（NHK）	

3	映像表現&フェロー記念講演	5	白石路雄（東邦大）	
4	メディア工学2	5	萩尾勇太（NHK）	
5	ヒューマンインフォメーション	3	森川大輔（富山県立大）	
6	スポーツ情報処理	4	春山知生（NTTドコモ）	
7	マルチメディアストレージ	8	吉村 哲（秋田大） 加藤大典（NHK）	
8	メディア工学3	6	小池崇文（三菱電機）	
9	無線・光伝送	5	鈴木高幸（テレビ朝日）	
10	メディア工学4	4	望月貴裕（NHK）	
11	立体メディア技術	6	堤 公孝（NTT）	
12	センシング1	6	峰尾圭忠（NHK）	
13	放送・通信方式1および放送現業	6	松崎敬文（NHK）	
14	センシング2	7	大竹 浩（ナノルクス）	
15	放送・通信方式2	6	グアン チャイユ（長崎大）	
[企画1] 不揮発性ディスプレイ		5	樋口昌芳（物材機構） 松井 淳（山形大）	
[企画2] 3次元ディスプレイ実現に向けた要素技術の動向		4	高田英明（長崎大） 吉村 哲（秋田大）	
[企画3] (公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構の取組について		1	松尾英一（NHK仙台）	
[企画4] 2021年“熱かった夏”を振り返る～スポーツビッグイベントの放送・通信技術		3	斎藤恭一（NHK）	

(2) 冬季大会

実行委員会（委員長 苗村 健）において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2022年12月22日（木）、23日（金）

会 場 東京理科大学 森戸記念館（Zoom 併用）

一般講演 11セッション（91件）

企画講演 3セッション（15件）／フェロー記念講演：2件

参加者数 204名（聴講96名，一般発表91名，企画セッション関係者17名）

技術交流会 実施せず

2022年冬季大会セッション，講演件数，座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	AI／MLシステム，AIの実応用・運用	7	梅田崇之（NTTコミュニケーションズ）	
2	ヒューマンインフォメーション	7	萩谷光晴（神奈川大）	

3	ヒューマンインターフェース+フェロー記念講演	7	望月貴裕（NHK）	
4	センシング・ディスプレイ・ストレージ	6	北村和也（NHK）	
5	コンピュータビジョン・パターン認識・空間認識	10	五十川賢造（東芝）	
6	立体メディア技術	10	巻口誉宗（NTT）	
7	スポーツ情報処理	7	角田 貢（日体大）	
8	マルチメディアAI・深層学習&教育医学など産業応用システム	10	塚谷俊介（NTT）	
9	画像・映像・音声等デジタル処理&符号化	8	井田 孝（東芝）	
10	放送・通信方式，放送現業，無線・光伝送	10	田邊暁弘（NTT）	
11	映像表現&CG	10	岡市直人（NHK）	
[企画1] 放送におけるAIの活用		3	斉藤 一（テレビ東京）	
[企画2] 2021年度各賞受賞企業による記念講演		4	笹出晋司（フジテレビ）	
[企画3] 体育・スポーツ教育DXのための情報処理+フェロー記念講演		9	春山知生（NTTドコモ）	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

①KIBME FALL CONFERENCE 2022

会 期：2022年11月18日

場 所：光云（クァンウン）大学校 80 周年記念館/オンライン同時開催

②第28回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW2022）

会 期：2022年12月14日～16日

場 所：福岡国際会議場/オンライン同時開催

6. 支部活動報告

（1）北海道支部

①支部大会（2022年5月25日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

②役職者会

第1回（2022年5月25日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

第2回（2022年10月21日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催）

第3回（メール審議、資料配布日2023年4月3日）

③電気・情報関係学会北海道支部連合大会

（2022年11月5日～6日 オンライン開催）

講演件数：一般講演114件

参加者数：378名

特別講演

日 時：11月5日

講 師：早矢仕有子先生（北海学園大学 工学部生命工学科 教授）

演 題：絶滅危惧種シマフクロウの生態を探る

④北海道支部主催 技術セミナー2023

（2022年3月8日 TKP 札幌カンファレンスセンター／オンライン同時開催）

講演1「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE ES CON FIELD HOKKAIDO」～スポーツを核としたまちづ

くりへの挑戦～」

小林 兼氏 ((株) ファイターズ スポーツ&エンターテイメント
事業統括本部 企画統括部 統括部長)

講演 2 「メタバースと放送メディアの融合はできるのか？」～最新の事例から学ぶメタバースの可能性～

岸 敬介氏 ((株) キシブル 代表取締役)

講演 3 「V i r t u a l NHK」～メタバースを活用した番組制作～

高木市教氏 (日本放送協会 メディア総局 メディア開発企画センター チーフリード)

⑤映像情報メディア学会誌寄稿 (全 3 回 2022 年 7 月号、9 月号、11 月号)

「NHK札幌新放送会館の整備」

(2) 東北支部

①2022 年度通常大会 (2022 年 5 月 25 日 オンライン開催)

②役職会

第 1 回幹事会 (2022 年 6 月 28 日, メール審議)

*会誌記事題目・企画提案について

第 2 回幹事会 (2022 年 7 月 6 日, メール審議)

*サイエンス・デイでの表彰実施、副賞の募集について

第 3 回幹事会 (2023 年 2 月 24 日, メール審議)

*第 76 回東北地方技術報告会特別講演への共催について

第 4 回幹事会 (2023 年 3 月 16 日, メール審議)

*東北地区若手研究者研究発表会での表彰実施について

③施設見学会 ※コロナ禍のため自粛

④第 7 5 回東北地方技術報告会特別講演 (2022 年 5 月 14 日 NHK仙台放送局と共催)

「企業における IoT 導入や DX 推進とその事例」

⑤後援団体として参加

1) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2022 (2022 年 7 月 17 日 東北大学開催)

2) サイエンス・デイ AWARD 2022 表彰「映像情報メディア学会東北支部賞」(2022 年 7 月 17 日)

*受賞した秋田県立由利高等学校には副賞として東北支部役職者提供のノベルティグッズを贈呈

⑥電気関係学会東北支部連合大会 (2022 年 8 月 23 日～24 日, 東北学院大学よりオンライン開催)

一般講演: 発表件数 190 件

⑦映像情報メディア学会年次大会 (2022 年 8 月 24 日～26 日, オンライン開催)

東北支部企画提案および座長対応

8/25 企画セッション「(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構の取り組みについて」

⑧映像情報メディア学会誌企画提案

2023 年 5 月号<話題>欄, 題目「包括的連携と協力に関する協定」を活用した

東北放送と東北工業大学による地域・メディア活性化の取り組み」の掲載

⑨2023 年東北地区若手研究者研究発表会 (共催)

(2023 年 3 月 1 日, 主催: 東北地区若手研究者発表会, 日本大学工学部開催)

発表件数: 口頭発表 105 件, ポスター 81 件

*映像情報メディア学会東北支部優秀発表者表彰 3 件, 受賞者には表彰状を送付

(3) 北陸支部

①2022 年度北陸支部大会 (5 月 26 日, オンライン開催)

②第 31 回 中部放送技術フォーラム (2022 年 18 日～19 日, 対面とオンラインのハイブリット開催)

③2022 年度電気関係学会北陸支部連合大会 (2022 年 9 月 3 日, オンライン開催)

④2022 年度映像情報メディア学会北陸支部講演会

(2023 年 3 月 7 日, 対面とオンラインのハイブリット開催)

演題 1: AI 技術による番組制作支援とサービス展開

講師 1: 望月 貴裕 (NHK 技術研究所)

演題 2: デジタルテクノロジーが実現する映像制作の現在、そして未来～大河ドラマ「どうする家康」より～

講師 2: 久野 裕大 (NHK 放送技術局)

参加者: 49 名

⑤北陸地区電気・電子・情報関係学科の成績優秀学生の表彰 (2023 年 3 月 1 日)

11 校 11 名（賞状と記念品の発送）

（４）東海支部

①支部大会（2022 年 4 月 18 日，Teams オンライン開催）

②電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（2022 年 8 月 29 日～30 日，Zoom オンライン開催）
講演数：338 件

参加登録 講演者：338 名，聴講者：270 名

③支部会員向けオンライン講演会（東海支部連合大会の企画セッション無料公開）
（2022 年 8 月 29 日 zoom オンライン開催）

講演 1 「NHK プラス今後の展開について」講師：石川浩一氏（NHK）

講演 2 「TVer の現在とこれから」講師：須賀久彌氏（TVer）

講演 3 「動画配信で利用される CDN 技術について」講師：上坪崇氏（アカマイテクノロジーズ）
参加者：22 名

④共催

中部放送技術フォーラム（2022 年 5 月 18 日～19 日，Teams オンライン開催/NHK 名古屋放送局）
発表：19 件、参加者：延べ 300 人以上（推定）

特別講演 1 「AI 音声合成ベンチャー企業” テクノスピーチ” の歩み」

講師：大浦圭一郎氏（(株) テクノスピーチ 代表取締役 (CEO, CTO) ）

特別講演 2 「空の移動革命への挑戦～日本初 空飛ぶクルマと物流ドローンの開発～」

講師：大石梨紗氏（(株) SkyDrive CEO 室 PR チーム）

メディア工学研究会/スポーツ情報処理研究会〔合同〕（画像処理、スポーツ情報処理および一般）
（2022 年 12 月 7 日，名古屋工業大学（ハイブリッド開催，主：現地開催，副：オンライン開催）
参加者：24 人（現地参加 18 人、オンライン参加 6 人）

⑤役職会

第 1 回臨時役職会（2022 年 4 月 1 日，メール審議）支部役職者交代について

第 2 回臨時役職会（2022 年 5 月 27 日，メール審議）支部役職者交代について

第 3 回臨時役職会（2022 年 6 月 17 日，メール審議）支部役職者交代について

第 4 回臨時役職会（2022 年 6 月 27 日，メール審議）支部役職者交代について

（５）関西支部

①「他学会連携」

電気関係学会関西連合大会（2022 年 11 月 26 日～27 日，於：京都大学（オンライン開催）
（オンライン開催）

本支部担当講演：G12 画像処理技術 一般講演 6 件、招待講演 1 件

G13 映像メディア関連技術 一般講演 5 件、招待講演 1 件

②専門講習会 1（2022 年 7 月 7 日，zoom 開催）

テーマ：「3D イメージング技術と活用プラットフォーム ～自動運転からメタバースまで～」

講演件数：6 件 有料受講者：22 名

③専門講習会 2（2022 年 10 月 27 日，zoom 開催）

テーマ：「コロナ禍での映像表現 ～現場での取り組みから、技術的背景まで～」

講演件数：6 件 有料受講者：14 名

④専門講習会 3（2023 年 2 月 14 日，zoom 開催）

テーマ：「飛躍的な発展を続けるバーチャル映像制作技術とメタバースの未来」

講演件数：6 件 有料受講者：27 名

⑤役職会（6 回）

・第 1 回役職会（2022 年 4 月 28 日）zoom 開催

・第 2 回役職会（2022 年 6 月 30 日）zoom 開催

・第 3 回役職会（2022 年 10 月 24 日）zoom 開催

・第 4 回役職会（2023 年 1 月 20 日）zoom 開催

・第 5 回役職会（2023 年 3 月 23 日）zoom 開催

（６）中国支部

①2022 年度中国支部 支部大会（2022 年 4 月 13 日，Teams オンライン会議）

②2022 年度（第 73 回）電気・情報関連学会中国支部連合大会第 1 回大会委員会
（2022 年 5 月 19 日，ZOOM オンライン会議）

- ③2022 年度(第 73 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第 2 回大会委員会
(2022 年 6 月 28 日, ZOOM オンライン会議)
- ④2022 年度(第 73 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会プログラム編成委員会
(2022 年 9 月 7 日 ZOOM オンライン会議)
- ⑤2022 年度(第 73 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会
(2022 年 10 月 22 日, Zoom オンライン開催(島根大学))
会場(Zoom)数: 24, 部門数: 27, セッション数: 43, 講演数: 206 件
- ⑥2022 年度中国支部 役員・運営委員会(2022 年 12 月 14 日, Teams オンライン会議)
- ⑦2022 年度(第 73 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第 3 回大会委員会
(2022 年 12 月 16 日, ZOOM オンライン会議)
- ⑧2022 年度電気・情報関連学科優秀卒業生表彰 58 校 90 名
- ⑨2023 年度中国支部 支部役職者選挙(2023 年 2 月 18 日～3 月 18 日 Web 投票)
- (7) 四国支部
 - ①四国支部通常支部大会(2022 年 4 月 13 日～4 月 27 日, 書面による審議)
 - ②四国支部役職会
(2022 年 9 月 16 日～9 月 30 日および 2022 年 11 月 7 日～12 月 9 日, メール審議)
 - ③電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会(2022 年 9 月 24 日, 徳島大学(ハイブリッド開催))
発表件数 198 件
第 1 回実行委員会(2022 年 5 月 19 日, オンライン)
第 2 回実行委員会(2022 年 8 月 21 日～8 月 29 日, メール審議)
臨時実行委員会(2022 年 9 月 28 日～10 月 6 日, メール審議)
第 3 回実行委員会(2022 年 11 月 30 日, オンライン)
 - ④四国コンテンツ映像フェスタ 2022(協賛 審査員協力/副賞提供)
応募作品事前審査(2022 年 11 月 28 日～12 月 12 日)
審査会・表彰式(2023 年 1 月 24 日)
- (8) 九州支部
 - ①支部通常大会(2022 年 5 月 25 日, Teams オンライン会議)
 - ②2022 年度電気・情報関係学会九州支部連合大会
(2022 年 9 月 16 日～17 日, オンライン開催(長崎大学))
講演件数: 一般講演 336 件(2021 年度 315 件)
参加者数: 563 名(2021 年度 507 名)
特別講演
講 師: 岡野 雄一(漫画家)
演 題: 「ペコロスの母が会いに来る」
 - ③放送技術研究会(本部と共催)
(2023 年 1 月 26 日～27 日, ハイブリット開催(NHK 福岡・よかビジョンホール))
学生および若手発表: 13 件
一般講演 3 件
招待講演
講 師: 北島正司(NHK)
演 題: 「NHK の放送における新技術活用事例」
パネルディスカッション(パネリスト: 鹿児島県立錦江湾高校、BCT 研専門委員)
 - ④九州支部主催講演会 ※新型コロナ感染拡大に伴うまん延防止措置のため講演会開催を見送り
 - ③放送技術研究会(本部と共催)
(2022 年 1 月 21 日, オンライン開催)
学生および若手発表: 10 件
一般講演: 2 件
 - ④九州支部主催講演会 ※新型コロナ感染拡大に伴うまん延防止措置のため開催を見送り
 - ⑤九州支部主催施設見学会
(2022 年 4 月 17 日, NHK福岡 8 Kシアター見学会 ※前年度より繰越)
(2022 年 4 月 23 日, NHK佐賀新放送会館見学会 ※前年度より繰越)
 - ⑥役職会(6 回)

- 第1回役職会（2022年5月，オンライン） ※2022年度支部通常大会 議案について
 第2回役職会（2022年6月，メール審議） ※学会誌記事題目・企画提案について
 第3回役職会（2022年8月，メール審議） ※2022年度・1月放送技術研究会の開催について
 第4回役職会（2022年10月，メール審議） ※次年度研究会の支部地域開催について
 第5回役職会（2022年12月，メール審議） ※2023年度支部長選出について
 第6回役職会（2023年1月，メール審議） ※2023年度支部役員改選について

7. 支部別会員数（2023年3月31日現在）

支部名	正会員	学生会員	合計	維持会員
北海道支部	45	2	47	5社（27口）
東北支部	67	0	67	16社（32口）
北陸支部	48	0	48	4社（8口）
東海支部	122	1	123	14社（34口）
関西支部	275	11	276	11社（90口）
中国支部	59	1	60	14社（24口）
四国支部	36	0	36	9社（12口）
九州支部	68	2	70	14社（29口）
支部合計	720	17	727	87社（256口）

注：正会員には名誉会員を含める

注：学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長 谷口行信）において、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました。今年度も、体系的（冊子）にはせず、このままの形態で学会HPにて公開することにしました。

9. ITEテストチャートの作成・頒布（定款 第4条（2））

ITEテストチャート委員会（委員長 井口和久）を中心に以下の事業を展開しました。

- （1）超高精細・広色域HDR版標準動画は2019年3月の頒布開始以来引き合いが続いています。
 一方、スタジオにてHDR効果を際立たせた照明により撮影、制作した超高精細・広色域HDR版標準動画第2版を2022年4月に頒布を開始しましたが引き合いはありませんでした。第2版の特徴をPRする必要があります。
- （2）3次元マルチチャネル音響標準音源小委員会（主査 小野一穂）、ARIBと共同で3次元マルチチャネル音響標準音源Bシリーズとして、オブジェクトベース標準音源の制作を検討してまいりましたが、2022年度は具体的な制作方針の決定には至りませんでした。
- （3）透過型/反射型ハイビジョンテストチャートなどのハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像、超高精細・広色域標準動画Aシリーズ/Bシリーズについても引き合いが続いています。

10. 丹羽高柳賞, 技術振興賞, 鈴木記念奨励賞, 映像情報メディア未来賞の選考と贈呈（定款 第4条（5））

〔各賞受賞者氏名／敬称略〕

＜丹羽高柳賞＞

（1）功績賞

①受賞者：藤掛英夫（東北大学大学院 工学研究科）

功績：映像情報メディアを先導する革新的ディスプレイ技術の創出

②受賞者：田中孝司（KDDI）

功績：マルチメディアコンテンツサービスの高度化への貢献

（2）業績賞

①受賞者：香川景一郎・安富啓太・川人祥二（静岡大学 電子工学研究所）

業績：超高時間分解コンピュータシミュレーション CMOS イメージセンサの開発

②受賞者：河村 圭・海野恭平・木谷佳隆（KDDI 総合研究所 XR 部門）

業績：H.266|Versatile Video Coding (VVC) の国際標準化と実用化への貢献

(3) 論文賞

- ①受賞者：Shigeyuki Imura, Keitada Mineo, Yuki Honda, Toshiki Arai, Kazunori Miyakawa, Toshihisa Watabe, Misao Kubota, Satoshi Aihara, Masakazu Nanba (NHK), Keisuke Nishimoto, Mutsumi Sugiyama (Tokyo University of Science)
題 目：High Sensitivity Crystalline Selenium-based CMOS Image Sensor Using Avalanche Multiplication
- ②受賞者：Yasuhito Sawahata, Yamato Miyashita, Kazuteru Komine (NHK)
題 目：Intended 3D Content Expressions on Light-field Displays using Adaptive Depth Compression
- ③受賞者：村瀬健二・武田雄策, 原 利宏 (マツダ), 吉海亮介・金子寛彦 (東京工業大学)
題 目：偏った視線方向における心理物理的ホロプロターの同定
- ④受賞者：鶴崎裕貴 (日本ケーブルラボ/KDDI 総合研究所), 木谷佳隆 (KDDI 総合研究所), 柴田達雄 (日本ケーブルラボ)
題 目：ケーブルテレビの実環境に基づく放送・通信映像伝送動的切換システムの実現可能性検証

<鈴木記念奨励賞>

- ①受賞者：武藤雅司 (東京理科大学)
題 目：単一光子検出型イメージセンサにおける動きぼけを考慮した HDR 撮像方式 (年次 32B-3)
- ②受賞者：山西博雅 (東京大学)
題 目：Heterogeneous Graph による観光地の人気予測 (冬季 11B-5)
- ③受賞者：花岡洋平 (KDDI 総合研究所)
題 目：3D メッシュ地図上での再帰的なカメラ姿勢更新による高精度自己位置推定 (冬季 13B-4)
- ④受賞者：村上智哉 (NHK)
題 目：3次元姿勢推定技術を応用した手話モーション生成手法の検討 (冬季 23B-6)

<技術振興賞>

(1) 進歩開発賞 (現場運用部門)

- ①受賞者：森山顕矩 (テレビ朝日)
題 目：自動スイッチングシステムの開発
- ②受賞者：BlurOn 開発チーム
加藤大樹 (日本テレビ), 渡邊之人 (エヌ・ティ・ティ・データ)
題 目：AI 自動モザイク編集ソフト「BlurOn」(ブラーオン) の開発
- ③受賞者：栗原 清・阿部真由美・大蔵哲士 (NHK)
題 目：音声合成の開発による AI アナウンスシステムの実用化

(2) 進歩開発賞 (研究開発部門)

- ①受賞者：4K/8K 解像度 H.266|VVC 対応リアルタイムコーデック開発チーム
河村 圭・木谷佳隆・海野恭平 (KDDI 総合研究所)
題 目：4K/8K 解像度 H.266|VVC 対応リアルタイムコーデックの開発

(3) コンテンツ技術賞

- ①受賞者：メタバース XR プロダクション開発グループ
(テレビ朝日, テレビ朝日クリエイト, クラスタ)
コンテンツ名：メタバース XR プロダクションの開発と運用～放送とメタバース空間の完全連動～
- ②受賞者：近藤剛史・宮澤真子・片柳 悠 (テレビ東京)
コンテンツ名：3DCGを活用したXRバーチャルプロダクションでの音楽番組制作
- ③受賞者：プロ野球中継高度化検討チーム (日本テレビ, キヤノン)
コンテンツ名：ボリュメトリックビデオを用いたプロ野球中継

<映像情報メディア未来賞>

- ①受賞者：高色純度量子ドット発光素子開発グループ
本村 玄一 (NHK), 上松太郎 (大阪大学), 亀山達矢 (名古屋大学)
題 目：多元系半導体量子ドットを使った高色純度発光素子の開発

1 1. 名誉会員の推薦（定款 第4条（8））

本年度、第5回理事会において、寺西信一氏（静岡大学）1名を第69回定時社員総会において名誉会員に推挙することといたしました。

1 2. フェロー認定証の贈呈（定款 第4条（5））

フェロー選定委員会（委員長 苗村 健）において、慎重に検討しました結果、次の1名の方にフェローの称号を授与することといたしました。

＜フェロー認定者／五十音順＞

河北真宏（大阪工業大学）

1 3. 社会貢献活動（定款 第4条（7））

1）2021年度各賞受賞企業による記念講演（冬季大会併催）

日時：2022年12月22日（木）

会場：東京理科大学 森戸記念館

（1）＜技術振興賞＞進歩開発賞（現場運用部門）受賞

『WEBブラウザ上で動作する素材アップロードツール「クラボ」の開発』

小池 中・杉田佳則（日本テレビ）、榊原 毅（NEC）

（2）＜技術振興賞＞進歩開発賞（現場運用部門）受賞

『災害情報カメラ収録システム「TOREZO」の開発 ～ 日本全国に広がる情報カメラ映像の自動送出を実現 ～』

次世代情報カメラプロジェクト 峯 武史・鈴木健司・松永政孝（フジテレビ）

（3）＜技術振興賞＞進歩開発賞（研究開発部門）受賞

『特定空間フォーカス型360度動画再生アプリ「音のVR」の開発と実用化』

音のVRアプリ開発チーム 堀内俊治・大久保翔太・小林達也（KDDI総合研究所）

（4）＜映像情報メディア未来賞＞受賞

『インコヒーレントデジタルホログラフィーの動画撮影に向けた複数ホログラムの一括撮影技術』
インコヒーレントデジタルホログラフィー研究グループ

室井哲彦・信川輝吉・片野祐太郎・萩原 啓（NHK）

1 4. 通常総会の開催（定款 第4条（8））

（1）第68回定時社員総会

会期 2022年5月27日

会場 機械振興会館 + オンライン

（2）第69回定時社員総会の準備

2023年5月26日に予定し、その準備を行いました。

1 5. 2022年度理事会の開催（定款 第4条（8））

本年度の定例理事会は新型コロナウイルス感染予防のため原則としてオンサイト開催を取りやめ、リモートで8回開催いたしました。このうち、代表代議員出席3回、支部長出席（代理を含む）8回にて開催し、学会の事業活動などを積極的に推進するための検討を行いました。

以上

2022年度決算報告書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	54,790,381	51,705,139	3,085,242
現金	83,681	40,676	43,005
当座預金	10,303,615	8,602,582	1,701,033
普通預金	36,997,700	38,902,109	-1,904,409
郵便振替貯金	6,966,298	3,756,691	3,209,607
定期預金	439,087	403,081	36,006
未収会費	1,279,900	1,171,200	108,700
未収収益	3,780,241	3,618,714	161,527
棚卸資産	11,378,678	11,387,403	-8,725
貯蔵品	514,000	359,500	154,500
有価証券	5,000,000	5,000,000	0
立替基金	85,713	26,213	59,500
仮払基金	401,350	398,750	2,600
貸倒引当金	-83,700	-79,900	-3,800
流動資産合計	77,146,563	73,587,019	3,559,544
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	10,768,414	10,768,414	0
選奨基金	15,807,151	15,955,528	-148,377
啓発普及基金	14,000,000	14,000,000	0
研究・特別企画基金	26,597,768	26,597,768	0
記念事業特定資産	35,850,294	35,850,294	0
会誌活性化等特定資産	27,871,500	29,871,500	-2,000,000
事務局設備特定資産	860,310	860,310	0
鈴木記念特賞特定金	1,702,617	1,735,507	-32,890
発展事業基金	7,977,316	7,677,356	299,960
特定資産合計	141,435,370	143,316,677	-1,881,307
(3) その他固定資産			
ソフトウェア工ア	5	116,703	-116,698
什器備品	1	1	0
保証金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	1,714,806	1,831,504	-116,698
固定資産合計	146,150,176	148,148,181	-1,998,005
資産合計	223,296,739	221,735,200	1,561,539
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	935,275	788,799	146,476
前受金	55,000	0	55,000
前受会費	759,300	790,900	-31,600
預り金	160,273	249,408	-89,135
賞与引当金	2,553,065	3,494,565	-941,500
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	373,400	634,400	-261,000
流動負債合計	4,906,313	6,028,072	-1,121,759
2. 固定負債			
退職給付引当金	17,250,771	17,250,771	0
固定負債合計	17,250,771	17,250,771	0
負債合計	22,157,084	23,278,843	-1,121,759
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	-8,000,000	-8,000,000	0
2. 一般正味財産	201,139,655	198,456,357	2,683,298
(うち特定資産への充当額)	-16,741,000	-16,741,000	0
正味財産合計	201,139,655	198,456,357	2,683,298
負債及び正味財産合計	223,296,739	221,735,200	1,561,539

貸借対照表内訳表

2023年 3月31日現在

一般社団法人映像情報庁 77学会

科 目	実施		
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	-99,834,791	-12,389,574	-1,527,907
現金	-8,528,785	-8,109,395	-166,893
当座預金	79,512,597	6,154,161	0
普通預金	-183,543,936	-11,412,579	-1,361,014
郵便振替貯金	12,725,333	978,239	0
定期預金	0	0	0
未収会費	0	0	0
未収卸資産	659,040	313,300	0
棚貯蔵品	0	0	0
貯蔵証券	514,000	0	0
有価証券	0	0	0
立仮払金	0	59,500	0
他会計へ振出	0	0	0
貸倒引当金	20,449,711	497,088	0
流動資産合計	0	0	0
2. 固定資産	-78,212,040	-11,519,686	-1,527,907
(1) 基本財産			
定期預金	0	0	0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	0	0	0
選奨基金	-15,000,000	0	0
啓発普及基金	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0
記念事業特定資産	0	0	0
会誌活性化等特定資産	27,871,500	0	0
事務局設備特定資産	0	0	0
鈴木記念賞特定金	0	0	0
発展事業基金	0	0	0
特定資産合計	12,871,500	26,597,768	0
(3) その他固定資産			
ソフトウェア工ア	-81,576	0	0
什器備用品	0	0	0
保証金	0	0	0
その他固定資産合計	-81,576	0	0
固定資産合計	12,789,924	26,597,768	0
資産合計	-65,422,116	15,078,082	-1,527,907
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	210,009	183,010	0
前受金	55,000	0	0
前受会費	0	0	0
預り金	3,023	0	0
賞与引当金	167,460	24,016	0
未払法人税等	0	0	0
他会計より繰入	159,887,888	61,913,276	1,137
未払消費税等	0	0	0
流動負債合計	160,323,380	62,120,302	1,137
2. 固定負債			
退職給付引当金	-1,508,478	958,406	0
固定負債合計	-1,508,478	958,406	0
負債合計	158,814,902	63,078,708	1,137
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	-215,413,445	-46,846,648	-1,528,687
正味財産合計	-224,237,018	-48,000,626	-1,529,044
負債及び正味財産合計	-65,422,116	15,078,082	-1,527,907

事業

表彰、コンクール	共通	小計	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係
-3,777,730	31,526,015	-86,003,987	15,808,733	564,878	115,243,521
-238,427	-257,092	-17,300,592	-1,147,131	-3,595	-662,864
2,502,137	-33,888,982	54,279,913	25,234,952	586,835	103,928,096
-6,048,136	73,034,444	-129,331,221	-35,366,706	-21,008	12,111,807
6,696	-7,362,355	6,347,913	27,087,618	2,646	-133,518
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	972,340	1,359,390	0	824,953
0	0	0	0	0	10,610,393
0	0	514,000	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	59,500	0	0	0
0	0	0	0	0	0
553,475	0	21,500,274	17,198,850	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-3,224,255	31,526,015	-62,957,873	34,366,973	564,878	126,678,867
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
30,807,151	0	15,807,151	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	26,597,768	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	27,871,500	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,617,367	-1,914,750	1,702,617	0	0	0
0	0	0	0	0	0
34,424,518	-1,914,750	71,979,036	0	0	0
0	0	-81,576	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	-81,576	0	0	0
34,424,518	-1,914,750	71,897,460	0	0	0
31,200,263	29,611,265	8,939,587	34,366,973	564,878	126,678,867
10,650	0	403,669	275,595	0	94,150
0	0	55,000	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	3,023	0	0	0
42,029	0	233,505	0	0	0
0	0	0	0	0	0
53,147,453	31,238,244	306,187,998	-618,431	0	23,400
0	100,818	100,818	0	0	0
53,200,132	31,339,062	306,984,013	-342,836	0	117,550
1,095,038	0	544,966	1,279,002	0	0
1,095,038	0	544,966	1,279,002	0	0
54,295,170	31,339,062	307,528,979	936,166	0	117,550
0	0	0	0	0	0
-33,072,815	-1,727,797	-298,589,392	42,730,357	564,878	107,732,897
-23,094,907	-1,727,797	-298,589,392	33,430,807	564,878	126,561,317
31,200,263	29,611,265	8,939,587	34,366,973	564,878	126,678,867

その他会計(収)					
会誌頒布	会誌50CD-ROM	会誌関係	共通	小計	講演会(支部)
14,466,165	29,952	0	-44,985,862	101,127,387	-3,350,978
3,300	0	0	-186,706	-1,996,996	-547,039
14,370,237	0	0	-39,806,394	104,313,726	0
0	0	0	5,450,484	-17,825,423	-2,803,939
92,628	29,952	0	-10,443,246	16,636,080	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
67,698	0	0	0	2,252,041	0
0	768,285	0	0	11,378,678	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	1,434,669	18,633,519	0
0	0	0	4,800	4,800	0
0	0	0	-56,000	-56,000	0
14,533,863	798,237	0	-43,602,393	133,340,425	-3,350,978
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
14,533,863	798,237	0	-43,602,393	133,340,425	-3,350,978
0	0	0	0	369,745	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	609,525	609,525	0
0	0	0	0	0	0
3,830,371	0	592,076	66,622,232	70,449,648	0
0	0	0	250,178	250,178	0
3,830,371	0	592,076	67,481,935	71,679,096	0
0	0	0	3,716,505	4,995,507	0
0	0	0	3,716,505	4,995,507	0
3,830,371	0	592,076	71,198,440	76,674,603	0
0	0	0	0	0	0
10,584,621	-797,755	-592,076	-103,557,100	56,665,822	-3,428,551
10,703,492	798,237	-592,076	-114,800,833	56,665,822	-3,350,978
14,533,863	798,237	0	-43,602,393	133,340,425	-3,350,978

連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)	年次大会
-4,862,928	1,908,867	-904,392	-1,327,929	-99,420	15,154,499
-332,846	-307,195	-212,450	-23,000	-92,840	-1,224,138
0	0	0	0	0	7,517,701
-4,530,082	2,216,062	-691,942	-1,304,929	-6,580	-10,641,979
0	0	0	0	0	19,502,915
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	151,860
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
4,370	0	0	0	0	11,000
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,858,558	1,908,867	-904,392	-1,327,929	-99,420	15,317,359
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,858,558	1,908,867	-904,392	-1,327,929	-99,420	15,317,359
0	0	0	163,764	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,370	0	0	0	0	81,703
0	0	0	0	0	0
-4,370	0	0	163,764	0	81,703
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
-4,370	0	0	163,764	0	81,703
0	0	0	0	0	0
-9,009,248	1,989,502	-901,314	-1,497,849	-99,420	19,523,850
-4,854,188	1,908,867	-904,392	-1,491,693	-99,420	15,235,656
-4,858,558	1,908,867	-904,392	-1,327,929	-99,420	15,317,359

冬季大会	講習会関係	SMPTE日本会合	国際講演会	講演会	NICT国際交流
10,046,523	713,379	-29,052	261,224	170,306	0
256,128	-5,000	0	-950	-290	0
7,707,373	120,000	0	490,167	133,000	0
-6,682,547	788,379	-29,052	-227,993	2,596	0
8,765,569	-190,000	0	0	35,000	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
404,000	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
24,457	0	0	0	288,528	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
10,474,980	713,379	-29,052	261,224	458,834	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
10,474,980	713,379	-29,052	261,224	458,834	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,586	0	-998,255	90	263,362	0
0	0	0	0	0	0
3,586	0	-998,255	90	263,362	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,586	0	-998,255	90	263,362	0
0	0	0	0	0	0
10,323,538	713,379	979,571	261,134	199,842	0
10,471,394	713,379	969,203	261,134	195,472	0
10,474,980	713,379	-29,052	261,224	458,834	0

科学博物館展示	法人会計				
	共通	小計	法人会計	法人会計(支部)	小計
-206,954	-8,291,600	9,181,545	17,530,753	12,954,683	30,485,436
-3,158	-39,420	-2,532,198	20,165,636	1,747,831	21,913,467
0	-3,380,345	12,587,896	-160,877,920	0	-160,877,920
-203,796	5,919,835	-18,195,967	191,143,459	11,206,852	202,350,311
0	-10,791,670	17,321,814	-33,339,509	0	-33,339,509
0	0	0	439,087	0	439,087
0	0	0	1,279,900	0	1,279,900
0	0	555,860	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
0	0	0	26,213	0	26,213
0	0	0	401,350	0	401,350
0	2,879,401	3,207,756	219,128,241	0	219,128,241
0	0	0	-4,800	0	-4,800
0	0	0	-27,700	0	-27,700
-206,954	-5,412,199	12,945,161	243,333,957	12,954,683	256,288,640
0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	10,768,414	0	10,768,414
0	0	0	0	0	0
0	0	0	14,000,000	0	14,000,000
0	0	0	0	0	0
0	0	0	35,850,294	0	35,850,294
0	0	0	0	0	0
0	0	0	860,310	0	860,310
0	0	0	0	0	0
0	0	0	7,977,316	0	7,977,316
0	0	0	69,456,334	0	69,456,334
0	0	0	81,581	0	81,581
0	0	0	1	0	1
0	0	0	1,714,800	0	1,714,800
0	0	0	1,796,382	0	1,796,382
0	0	0	74,252,716	0	74,252,716
-206,954	-5,412,199	12,945,161	317,586,673	12,954,683	330,541,356
0	-145,860	17,904	139,586	4,371	143,957
0	0	0	0	0	0
0	0	0	759,300	0	759,300
0	0	0	157,250	0	157,250
0	25,725	25,725	1,684,310	0	1,684,310
0	0	0	70,000	0	70,000
720	33,003,782	32,350,618	-146,522,844	4,370	-146,518,474
0	22,404	22,404	0	0	0
720	32,906,051	32,416,651	-143,712,398	8,741	-143,703,657
0	-228,146	-228,146	11,938,444	0	11,938,444
0	-228,146	-228,146	11,938,444	0	11,938,444
720	32,677,905	32,188,505	-131,773,954	8,741	-131,765,213
0	0	0	0	0	0
-207,674	-38,090,104	-19,243,344	449,372,627	12,933,942	462,306,569
-207,674	-38,090,104	-19,243,344	449,360,627	12,945,942	462,306,569
-206,954	-5,412,199	12,945,161	317,586,673	12,954,683	330,541,356

(単位：円)

内部消去		合 計
一般事業	小計	
0	0	54,790,381
0	0	83,681
0	0	10,303,615
0	0	36,997,700
0	0	6,966,298
0	0	439,087
0	0	1,279,900
0	0	3,780,241
0	0	11,378,678
0	0	514,000
0	0	5,000,000
0	0	85,713
0	0	401,350
-262,469,790	-262,469,790	0
0	0	0
0	0	-83,700
-262,469,790	-262,469,790	77,146,563
0	0	3,000,000
0	0	3,000,000
0	0	10,768,414
0	0	15,807,151
0	0	14,000,000
0	0	26,597,768
0	0	35,850,294
0	0	27,871,500
0	0	860,310
0	0	1,702,617
0	0	7,977,316
0	0	141,435,370
0	0	5
0	0	1
0	0	1,714,800
0	0	1,714,806
0	0	146,150,176
-262,469,790	-262,469,790	223,296,739
0	0	935,275
0	0	55,000
0	0	759,300
0	0	160,273
0	0	2,553,065
0	0	70,000
-262,469,790	-262,469,790	0
0	0	373,400
-262,469,790	-262,469,790	4,906,313
0	0	17,250,771
0	0	17,250,771
-262,469,790	-262,469,790	22,157,084
0	0	0
0	0	201,139,655
0	0	201,139,655
-262,469,790	-262,469,790	223,296,739

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用受益利	46,865	46,864	1
基本財産運用受益利	46,865	46,864	1
特定資産運用受益利	928,735	662,861	265,874
特定資産運用受益利	928,735	662,861	265,874
受取入金会金	23,500	21,000	2,500
受取入金会金	23,500	21,000	2,500
受取会費	46,626,650	48,819,200	-2,192,550
正学学生会員会費	23,711,650	25,174,200	-1,462,550
維持特殊会費	21,150,000	21,925,000	-775,000
アカデミックパートナー事業	700,000	720,000	-20,000
事業収益	1,065,000	1,000,000	65,000
事業収益	22,150,066	25,031,988	-2,881,922
会誌関係収入	3,812,215	4,681,490	-869,275
会誌頒布収入	805,758	937,476	-131,718
年次大会収入	1,772,300	0	1,772,300
冬季大会収入	1,122,800	2,313,600	-1,190,800
講習会収入	251,000	527,500	-276,500
研究会収入	1,356,800	1,545,500	-188,700
技術報告収入	5,465,350	5,573,155	-107,805
図書関係収入	0	18,480	-18,480
テストチャート収入	7,563,843	7,163,563	400,280
連合大会	0	2,271,224	-2,271,224
受取補助金等	0	150,000	-150,000
情報通信月間行事援助金	0	150,000	-150,000
受取寄付金	416,000	722,000	-306,000
発展事業寄付金	416,000	722,000	-306,000
雑収益	1,318,705	863,953	454,752
バックナンバー収入	80,145	23,450	56,695
受取利息	2,965	542	2,423
雑連合大会繰入金料	762,730	477,894	284,836
雑連合大会繰入金料	276,185	187,992	88,193
経常収益計	71,510,521	76,317,866	-4,807,345
(2) 経常費用			
事業費	49,047,914	55,720,280	-6,672,366
給料手当金	18,708,445	20,608,709	-1,900,264
派遣賃金	431,584	409,646	21,938
退職給付費用	0	2,955,391	-2,955,391
福利厚生費	2,617,362	2,828,761	-211,399
旅費	85,204	3,390	81,814
通信運搬費	2,754,554	2,698,470	56,084
消耗什器備品費	8,725	235,692	-226,967
消耗品費	1,082,570	738,883	343,687
修繕費	36,520	117,783	-81,263
印刷製本費	9,377,004	10,096,411	-719,407
賃借料	4,454,448	4,095,525	358,923
支払リース料	560,176	562,783	-2,607
諸謝金	676,545	592,376	84,169
租税公課	760,500	704,400	56,100
会費	270,066	278,381	-8,315
支払負担金	1,027,135	787,967	239,168
支払助成金	43,000	60,000	-17,000
支払宣伝費	286,000	110,000	176,000
委託託書費	4,912,107	6,156,755	-1,244,648
図書費	805,097	796,521	8,576
雑連合大会清算金	150,872	171,960	-21,088
管 理 費	0	710,476	-710,476
管 理 費	19,942,351	22,444,632	-2,502,281
給料手当金	7,963,708	8,772,598	-808,890
派遣賃金	417,159	541,862	-124,703
退職給付費用	0	1,258,036	-1,258,036
福利厚生費	1,101,803	1,292,339	-190,536

旅通費	交運費	通搬費	6,461	1,100	5,361
消耗品費			138,313	131,873	6,440
印刷製本費			140,857	286,550	-145,693
賃借料			0	3,500	-3,500
支払リース料			1,509,676	1,497,100	12,576
諸租税			324,308	324,308	0
委託費			147,205	149,538	-2,333
雑費			180,925	146,945	33,980
W e b ー I ー			236,058	180,417	55,641
会員管理費			5,051,315	4,772,905	278,410
法展事業資金			108,681	160,896	-52,215
減価償却費			1,879,171	2,176,615	-297,444
			433,973	462,598	-28,625
			116,040	15,460	100,580
			70,000	70,000	0
			116,698	199,992	-83,294
経常費用計			68,990,265	78,164,912	-9,174,647
評価損益等調整前当期経常増減額			2,520,256	-1,847,046	4,367,302
評価損益等計			0	0	0
当期経常増減額			2,520,256	-1,847,046	4,367,302
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
貸倒引当金戻入			79,900	85,000	-5,100
退職給付金取崩益			0	1,747,000	-1,747,000
経常外収益計			79,900	1,832,000	-1,752,100
(2) 経常外費用					
貸倒引当金繰入			83,700	79,900	3,800
貸倒引当金繰入			589,200	939,600	-350,400
賞与引当金繰入			-941,500	915,900	-1,857,400
雑損失			21,880	0	21,880
前期修正損			163,578	0	163,578
経常外費用計			-83,142	1,935,400	-2,018,542
当期経常外増減額			163,042	-103,400	266,442
当期一般正味財産増減額			2,683,298	-1,950,446	4,633,744
一般正味財産期首残高			198,456,357	200,406,803	-1,950,446
一般正味財産期末残高			201,139,655	198,456,357	2,683,298
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額			0	0	0
指定正味財産期首残高			0	0	0
指定正味財産期末残高			0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高			201,139,655	198,456,357	2,683,298

正味財産増減計算書内訳表

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般社団法人映像情報イノベーション学会

科 目	実施事業						
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール	共通	小計	技術報告関係
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利益	0	0	0	0	0	0	0
受取収入会金	0	0	0	0	0	0	0
受取収入会費	0	0	0	0	0	0	0
正学取会会費	0	0	0	0	0	0	0
維持特殊会会費	0	0	0	0	0	0	0
アカデミックイベント	0	0	0	0	0	0	0
事業関係収益	3,812,215	1,356,800	0	0	0	5,169,015	5,465,350
会誌関係収入	3,812,215	0	0	0	0	3,812,215	0
年会次頒布収入	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収入	0	0	0	0	0	0	0
講演習大会収入	0	0	0	0	0	0	0
研究報告収入	0	1,356,800	0	0	0	1,356,800	0
技術報告収入	0	0	0	0	0	0	5,465,350
本収入	0	0	0	0	0	0	0
受取部寄付金	0	0	0	0	0	0	0
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0
雑収	481,775	0	0	0	0	481,775	224,185
バックナンバー収入	0	0	0	0	0	0	32,345
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
雑収	476,935	0	0	0	0	476,935	0
支部繰入金	0	0	0	0	0	0	0
連合大会繰入金	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	4,293,990	1,356,800	0	0	0	5,650,790	5,689,535
(2) 経常費用							
事業費	19,368,691	3,623,455	107,146	1,855,950	186,435	25,141,677	3,145,007
給料手当	3,649,323	554,141	0	970,355	0	5,173,819	0
派遣賃金	295,426	87,200	0	0	0	382,626	0
福利厚生	567,887	86,311	0	150,952	0	805,150	0
旅費	2,128	33,020	0	0	0	35,148	0
通信費	2,082,888	90,360	10,954	47,263	0	2,231,465	403,367
消耗什器備品	0	0	0	0	0	0	0
消耗品	360,470	46,030	56,192	136,273	0	598,965	0
修繕費	36,520	0	0	0	0	36,520	0
印刷製本費	6,297,583	0	0	0	0	6,297,583	2,741,640
貸借	643,065	1,944,184	0	485,410	0	3,072,659	0
支払リース料	241,959	36,756	0	64,316	0	343,031	0
諸謝金	33,069	185,339	0	0	0	218,408	0
租税公課	0	0	0	0	186,435	186,435	0
社会費	0	0	0	0	0	0	0
支払議員負担金	0	170,569	30,000	0	0	200,569	0
支払広報伝	0	0	10,000	0	0	10,000	0
支広委託書	0	0	0	0	0	0	0
図費	4,493,097	141,652	0	0	0	4,634,749	0
雑費	660,097	145,000	0	0	0	805,097	0
管	5,179	102,893	0	1,381	0	109,453	0
管理費	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生	0	0	0	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品	0	0	0	0	0	0	0
消費什器備品	0	0	0	0	0	0	0
消費品	0	0	0	0	0	0	0
賃借	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0
社会費	0	0	0	0	0	0	0
委託	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0
Web	0	0	0	0	0	0	0
会議員管理費	0	0	0	0	0	0	0
支部交際費	0	0	0	0	0	0	0
支展事業資金	0	0	0	0	0	0	0
本部会計繰入金	0	0	0	0	0	0	0
本法入等	0	0	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	19,368,691	3,623,455	107,146	1,855,950	186,435	25,141,677	3,145,007
評価損益等調整前当期経常増減額	-15,074,701	-2,266,655	-107,146	-1,855,950	-186,435	-19,490,887	2,544,528
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-15,074,701	-2,266,655	-107,146	-1,855,950	-186,435	-19,490,887	2,544,528
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0
雑損失	21,600	0	0	0	0	21,600	280
前期修正損	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	21,600	0	0	0	0	21,600	280
当期経常外増減額	-21,600	0	0	0	0	-21,600	-280
当期一般正味財産増減額	-15,096,301	-2,266,655	-107,146	-1,855,950	-186,435	-19,512,487	2,544,248
一般正味財産期首残高	-200,317,144	-44,579,993	-1,421,541	-31,216,865	-1,541,362	-279,076,905	40,186,109
一般正味財産期末残高	-215,413,445	-46,846,648	-1,528,687	-33,072,815	-1,727,797	-298,589,392	42,730,357
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-215,413,445	-46,846,648	-1,528,687	-33,072,815	-1,727,797	-298,589,392	42,730,357

[illegible]

[illegible]

(単位：円)

科学博物館展示			法人会計			内部消去		合 計
	共通	小計	法人会計	法人会計(支部)	小計	一般事業	小計	
0	0	0	46,865	0	46,865	0	0	46,865
0	0	0	46,865	0	46,865	0	0	46,865
0	0	0	928,735	0	928,735	0	0	928,735
0	0	0	928,735	0	928,735	0	0	928,735
0	0	0	23,500	0	23,500	0	0	23,500
0	0	0	23,500	0	23,500	0	0	23,500
0	0	0	46,626,650	0	46,626,650	0	0	46,626,650
0	0	0	23,711,650	0	23,711,650	0	0	23,711,650
0	0	0	21,150,000	0	21,150,000	0	0	21,150,000
0	0	0	700,000	0	700,000	0	0	700,000
0	0	0	1,065,000	0	1,065,000	0	0	1,065,000
0	0	3,146,100	0	6,076,000	6,076,000	-6,076,000	-6,076,000	22,150,066
0	0	0	0	0	0	0	0	3,812,215
0	0	0	0	0	0	0	0	805,758
0	0	1,772,300	0	0	0	0	0	1,772,300
0	0	1,122,800	0	0	0	0	0	1,122,800
0	0	251,000	0	0	0	0	0	251,000
0	0	0	0	0	0	0	0	1,356,800
0	0	0	0	0	0	0	0	5,465,350
0	0	0	0	0	0	0	0	7,563,843
0	0	0	0	6,076,000	6,076,000	-6,076,000	-6,076,000	0
0	0	0	416,000	0	416,000	0	0	416,000
0	0	0	416,000	0	416,000	0	0	416,000
0	0	323,985	2,969,339	211,819	3,181,158	-2,962,398	-2,962,398	1,318,705
0	0	47,800	0	0	0	0	0	80,145
0	0	0	2,941	24	2,965	0	0	2,965
0	0	0	4,000	211,795	215,795	0	0	762,730
0	0	0	2,962,398	0	2,962,398	-2,962,398	-2,962,398	0
0	0	276,185	0	0	0	0	0	276,185
0	0	0	0	0	0	0	0	196,680
0	0	3,470,085	51,011,089	6,287,819	57,298,908	-9,038,398	-9,038,398	71,510,521
0	5,363,573	7,890,156	0	0	0	0	0	49,047,914
0	4,730,413	4,730,413	0	0	0	0	0	18,708,445
0	0	48,958	0	0	0	0	0	431,584
0	247,717	247,717	0	0	0	0	0	2,617,362
0	0	44,326	0	0	0	0	0	85,204
0	3,251	53,238	0	0	0	0	0	2,754,554
0	0	0	0	0	0	0	0	8,725
0	0	402,327	0	0	0	0	0	1,082,570
0	0	0	0	0	0	0	0	36,520
0	4,094	9,034	0	0	0	0	0	9,377,004
0	285,669	344,309	0	0	0	0	0	4,454,448
0	45,153	45,153	0	0	0	0	0	560,176
0	0	458,137	0	0	0	0	0	676,545
0	41,430	41,430	0	0	0	0	0	760,500
0	0	270,066	0	0	0	0	0	270,066
0	0	826,566	0	0	0	0	0	1,027,135
0	0	33,000	0	0	0	0	0	43,000
0	0	55,000	0	0	0	0	0	286,000
0	0	260,858	0	0	0	0	0	4,912,107
0	0	0	0	0	0	0	0	805,097
0	5,846	19,624	0	0	0	0	0	150,872
0	0	0	23,451,478	5,529,271	28,980,749	-9,038,398	-9,038,398	19,942,351
0	0	0	7,963,708	0	7,963,708	0	0	7,963,708
0	0	0	417,159	0	417,159	0	0	417,159
0	0	0	1,101,803	0	1,101,803	0	0	1,101,803
0	0	0	6,461	0	6,461	0	0	6,461
0	0	0	92,033	46,280	138,313	0	0	138,313
0	0	0	140,857	0	140,857	0	0	140,857
0	0	0	1,509,676	0	1,509,676	0	0	1,509,676
0	0	0	324,308	0	324,308	0	0	324,308
0	0	0	147,205	0	147,205	0	0	147,205
0	0	0	180,925	0	180,925	0	0	180,925
0	0	0	229,565	6,493	236,058	0	0	236,058
0	0	0	2,537,795	2,513,520	5,051,315	0	0	5,051,315
0	0	0	108,101	580	108,681	0	0	108,681
0	0	0	1,879,171	0	1,879,171	0	0	1,879,171
0	0	0	433,973	0	433,973	0	0	433,973
0	0	0	6,076,000	0	6,076,000	-6,076,000	-6,076,000	0
0	0	0	116,040	0	116,040	0	0	116,040
0	0	0	0	2,962,398	2,962,398	-2,962,398	-2,962,398	0
0	0	0	70,000	0	70,000	0	0	70,000
0	0	0	116,698	0	116,698	0	0	116,698
0	5,363,573	7,890,156	23,451,478	5,529,271	28,980,749	-9,038,398	-9,038,398	68,990,265
0	-5,363,573	-4,420,071	27,559,611	758,548	28,318,159	0	0	2,520,256
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	-5,363,573	-4,420,071	27,559,611	758,548	28,318,159	0	0	2,520,256
0	0	0	21,500	0	21,500	0	0	79,900
0	0	0	21,500	0	21,500	0	0	79,900
0	0	0	27,700	0	27,700	0	0	83,700
0	0	0	589,200	0	589,200	0	0	589,200
0	0	0	-941,500	0	-941,500	0	0	-941,500
0	0	0	0	0	0	0	0	21,880
0	0	0	18,000	0	18,000	0	0	163,578
0	0	0	-306,600	0	-306,600	0	0	-83,142
0	0	0	328,100	0	328,100	0	0	163,042
0	-5,363,573	-4,420,071	27,887,711	758,548	28,646,259	0	0	2,683,298
-207,674	-32,726,531	-14,823,273	421,484,916	12,175,394	433,660,310	0	0	198,456,357
-207,674	-38,090,104	-19,243,344	449,372,627	12,933,942	462,306,569	0	0	201,139,655
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
-207,674	-38,090,104	-19,243,344	449,372,627	12,933,942	462,306,569	0	0	201,139,655

財産目録

2023年 3月31日現在

一般社団法人映像情

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	83,681
	預金	当座預金		10,303,615
		みずほ新橋		6,881,164
		みずほ青山		3,422,451
		普通預金		36,997,700
		みずほ新橋①		899,315
		みずほ新橋②		322,706
		みずほ支部		444,729
		三井住友銀行		16,446,189
		三菱UFJ信託		2,294,865
		住友信託銀行		1,511,423
		北海道支部		229,008
		東北支部		195,144
		関西支部		492,363
		東海支部		380,521
		中国支部		358,677
		九州支部		372,000
		四国支部		319,336
		北陸支部		218,739
		大和証券		12,512,685
		郵便振替貯金		6,966,298
		郵便振替貯金①		6,663,212
		郵便貯金・普通		303,086
		定期預金		439,087
		みずほ新橋		439,087
	未収会費			1,279,900
	入会金			1,500
	正学会員会費			1,213,400
	維持会員会費			25,000
	ﾌｧﾅﾐｯｸ会費			40,000
	未収金			3,780,241
	会誌・広告			40,040
	技報予約			1,259,420
	技報別刷			62,350
	技報バックナンバー			37,620
	ﾅｰｽﾄﾁｬｰﾄ			824,953
	会誌・別刷			7,700
	年次大会			151,860
	冬季大会			404,000
	MTA			313,420
	和文論文掲載			297,880
	研究会			313,300
	その他			67,698
	棚卸資産			11,378,678
	ﾅｰｽﾄﾁｬｰﾄ完成品			10,610,393
	会誌50CD-ROM			768,285
	貯蔵品			514,000
	有価証券			5,000,000
	立替金			85,713
	その他			85,713
	仮払金			401,350
	その他			401,350
	貸倒引当金			-83,700
流動資産合計				77,146,563
(固定資産)	基本財産			3,000,000
	定期預金			3,000,000
	定期預金(一般)			3,000,000
	特定資産			141,435,370
	退職給付引当資産			10,768,414
	みずほ銀行支部			979
	大和証券			3,253,000
	三菱UFJ信託普通			3,564,680
	みずほ新橋①			1,259,000

	住友信託銀行			382,249
	三井住友銀行			2,308,506
	選奨基金			15,807,151
	みずほ銀行当座			807,151
	大和証券			15,000,000
	啓発普及基金			14,000,000
	みずほ銀行①			4,000,000
	大和証券			10,000,000
	研究・特別企画基金			26,597,768
	大和証券			20,000,000
	住友信託			4,253,683
	みずほ新橋②			2,344,085
	記念事業特定資			35,850,294
	郵便振替口座			8,167,940
	三井住友銀行			2,682,354
	大和証券			25,000,000
	会誌活性化等特定資			27,871,500
	産			
	大和証券			27,000,000
	三菱UFJ信託普通			517,922
	みずほ青山当座			353,578
	事務局設備特定資産			860,310
	三菱UFJ信託			860,310
	鈴木記念賞特定			1,702,617
	みずほ当座			283,351
	三井住友			1,419,266
	発展事業基金			7,977,316
	みずほ銀行①			736,728
	郵便振替口座			7,240,588
その他固定資産				1,714,806
	ソフトウェア			5
	什器備品			1
	保証金			1,714,800
固定資産合計				146,150,176
資産合計				223,296,739
(流動負債)				
	未払金			935,275
	テストチャート			96,438
	会誌編集			20,075
	調査研究			57,940
	会誌発送			315,004
	技報作成費			214,170
	技報発送費			59,137
	表彰・コンクール			10,650
	Web-IT・会員管理			41,800
	システム			
	支部			22,275
	その他			97,786
	前受金			55,000
	会誌・掲載			55,000
	前受会費			759,300
	正学会員会費			219,300
	維持会員会費			500,000
	アカデミック会費			40,000
	預り金			160,273
	源泉所得税預り金			36,193
	住民税預り金			98,800
	健康保険預り			8,640
	厚生年金預り金			14,640
	その他			2,000
	賞与引当金			2,553,065
	未払法人税等			70,000
	未払消費税等			373,400
流動負債合計				4,906,313
(固定負債)				
	退職給付引当金			17,250,771
固定負債合計				17,250,771
負債合計				22,157,084
正味財産				201,139,655

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選 奨 基 金	15,955,528	0	148,377	15,807,151
退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414	0	0	10,768,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
発 展 事 業 基 金	7,677,356	299,960	0	7,977,316
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	0	0	35,850,294
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	29,871,500	0	2,000,000	27,871,500
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,735,507	0	32,890	1,702,617
小 計	143,316,677	299,960	2,181,267	141,435,370
合 計	146,316,677	299,960	2,181,267	144,435,370

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000		3,000,000	
小 計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選 奨 基 金	15,807,151		15,807,151	
退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414			10,768,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000		14,000,000	
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768		26,597,768	
発 展 事 業 基 金	7,977,316		7,977,316	
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294		35,850,294	
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	27,871,500		27,871,500	
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310		860,310	
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,702,617		1,702,617	
小 計	141,435,370		130,666,956	10,768,414
合 計	144,435,370		133,666,956	10,768,414

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	3,924,615	3,924,610	5
そ の 他 工 具 備 品	966,000	965,999	1
合 計	4,890,615	4,890,609	6

6. 重要な後発事象

該当なし。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基 本 財 産	3,000,000	0	0	3,000,000
	基本財産計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産	選 奨 基 金	15,955,528	0	148,377	15,807,151
	退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414	0	0	10,768,414
	社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
	研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
	発 展 事 業 基 金	7,677,356	299,960	0	7,977,316
	設 備 拡 充 等 特 定 資 産	0	0	0	0
	記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	0	0	35,850,294
	会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	29,871,500	0	2,000,000	27,871,500
	事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
	鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,735,507	0	32,890	1,702,617
	特定資産計	143,316,677	299,960	2,181,267	141,435,370

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
貸倒引当金	79,900	83,700	0	79,900	83,700
賞与引当金	3,494,565	2,553,065	0	3,494,565	2,553,065
退職給付引当金	17,250,771	0	0	0	17,250,771
引当金計	20,825,236	2,636,765	0	3,574,465	19,803,836

監査報告

2023年5月9日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会長 伊丹 誠 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監事 出葉 義治



監事 池田 哲臣



私たち監事は、2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

2023年度役員改選選挙結果

2023年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月26日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

＜投票期間：2月18日（土）0時～3月18日（土）24時＞

次期会長：鈴木教洋（日立総合計画研究所）
副会長（本部）：境田慎一（NHK）
副会長（支部）：森本雅和（兵庫県立大学）
総務担当理事：樋口晴彦（日立製作所）
会計担当理事：坂東幸浩（NTTコンピュータ&データサイエンス研究所）
調査担当理事：加藤晴久（KDDI総合研究所）
編集担当理事：小池崇文（法政大学）
企画担当理事：秋田純一（金沢大学）
監事：川前 治（デクセリアルズ）

第5号議案

映像情報メディア学会

会長 伊丹 誠

定款第5条第1項第2号に基づき以下の者を映像情報メディア学会名誉会員に推薦致しますことを第5回定例理事会(2023/1/25開催)にて決しましたのでご審議願います。

名誉会員推薦候補者 氏名 : 寺西 信一
会員番号 : 8001207
年齢 : 69 歳 (2023 年 4 月 1 日現在)

以下に推薦理由を記します。

◆映像情報メディア学会における役員歴等

- ①情報入力研究会 幹事 1991 年-1994 年
 - ②編集委員会 論文部門委員長 1995 年-1997 年
 - ③情報センシング研究員会主査 1999 年-2001 年
 - ④次世代画像入力研究会 幹事 1995 年-2001 年
- 他に、全国大会実行委員、選奨委員会委員

◆学歴

1976 年 3 月 東京大学 理学部 物理学科卒業
1978 年 3 月 東京大学大学院 理学系研究科 物理学専門課程 修士課程 修了

◆職歴

1978 年 4 月-2000 年 3 月 日本電気(株)中央研究所、マイクロエレクトロニクス研究所、シリコンシステム研究所にて、イメージセンサ、赤外線センサ、カメラの開発を担当、のちに開発責任者となった。

2000 年 4 月-2013 年 5 月 パナソニック株式会社セミコンダクター社において、イメージセンサの開発責任者、マーケティング責任者を務めた。

2013 年 6 月-2022 年 3 月 兵庫県立大学高度産業科学技術研究所 特任教授
科学・産業用 X 線イメージセンサの開発に従事した。

2013 年 6 月-現在 静岡大学電子工学研究所 特任教授
イメージセンサの高感度化および低ノイズ化の研究開発、イメージセンサの新機能の創出に従事している。

この間、

1986 年 8 月-1987 年 8 月 アリゾナ州立大学客員研究員

トンネル効果の速度についての研究を行った。

1996 年 4 月-2000 年 3 月 半導体理工学研究センター 客員研究員

ビジョンチップの研究をサポートした。

2013 年 8 月-2018 年 3 月 理化学研究所放射光科学総合研究センター 客員研究員

放射光施設 SPring-8 で使用する X 線イメージセンサの開発を行った。

◆著書 10 件

学術論文 44 件

国際会議 92 件

登録特許 日本 46 件、米国 21 件

◆主な表彰

- 1) 全国発明表彰経済団体連合会会長発明賞 (社団法人発明協会) (1994. 7. 14)
”埋め込み型フォトダイオード”、寺西信一、石原保雄、白木広光.
- 2) 科学技術庁長官賞研究功績者 (1997. 4. 16)、“高感度低雑音 CCD イメージセンサの研究”、寺西信一
- 3) 丹羽高柳賞業績賞 (映像情報メディア学会) (2000. 5. 27) “CCD イメージセンサの研究開発と実用化”、寺西信一、石原保雄、河野明啓
- 4) フェロー (映像情報メディア学会) (2003. 5. 24)、“高性能 CCD イメージセンサの研究開発および実用化に関する貢献”、寺西信一
- 5) IEEE Fellow (IEEE) (2010.1.1), “for contribution to the development of charge-coupled device image sensors”, Nobukazu Teranishi
- 6) Progress Medal and Honored Fellowship (The Royal Photographic Society, UK) (2010.9.9), “for his pioneering involvement in the development of solid-state image sensors, especially the pinned photodiode”, N. Teranishi
- 7) Progress Medal (The Photographic Society of America) (September 24, 2011), “for his invention of the pinned photodiode”, Nobukazu Teranishi.
- 8) 丹羽高柳賞功績賞 (映像情報メディア学会) (2013. 5. 29)、“固体撮像素子の飛躍的高性能化と国際競争力確立への貢献”、寺西信一.
- 9) J. J. Ebers Award (IEEE Electron Devices Society) (2013.12.9), “For development of the Pinned Photodiode concept widely used in Image Sensors”
- 10) Queen Elizabeth Prize for Engineering (Queen Elizabeth Prize for Engineering foundation) (2017.12.6), Eric Fossum, George Smith, Nobukazu Teranishi, Michael Tompsett, “Creation of digital imaging sensors”.
- 11) 紫綬褒章 (2018. 4. 29)、“発明改良”、寺西信一

◆主な活動ならびに学会への貢献

候補者は固体イメージセンサの開発に 1978 年以来 44 年携わってきた。固体イメージセンサは 2019 年に 50 億個以上販売され、携帯電話カメラ、PC・タブレット、デジカメ、監視、車載、ロボット・FA、医療など社会のあらゆるところで使用され、産業・文化に大きく貢献している。このように結実した固体イメージセンサにおいて、候補者は国際的にもっとも影響力のあるリーダーである。

候補者はその先駆的研究から必須の基本技術群を生み出している。特に、埋込フォトダイオードの発明者として国際的に知られている。この技術は、低ノイズ、無残像、低暗電流、大きい飽和など劇的な特性向上をもたらしたことで、CCD イメージセンサと CMOS イメージセンサの両方に有効であり、量産されている固体撮像素子のほぼすべてで使用されているため、固体イメージセンサにおいてもっとも重要な技術の 1 つと考えられている。その他にも候補者は開発の担当者として、また、責任者として、固体イメージセンサの画素の微細化と多画素化、高感度化、高速化、多機能化を牽引し続けた。

当学会においては、情報センシング研究会の幹事、主査などを務めた。情報センシング研究会では、定例的に 3 月に固体イメージセンサ特集の研究会を開催することを定め、IEEE ISSCC や IEDM での発表をより長時間で詳細に説明してもらうようにした。2000 年前後は 300 名を超える参加者を集め、業界に活気をもたらしていた。今も 150 名程度が参加し、その伝統が続いている。2 月には、日本赤外線学会、および、電気学会 E 部門との合同の赤外線に関する研究会をスタートさせた。さらには、電子情報通信学会集積回路研究会との合同でアナログ・イメージセンサの研究会を発足させた。このように、イメージセンサに必要な技術を他学会との交流から生み出す仕組みを創った。

候補者は、当学会のみならず、国内外の学会でもリーダーシップを発揮している。International Image Sensor Society (IISS) の共同創始者・元会長であり、IISS が主催する IISW (International Image Sensors Workshop) はイメージセンサ界で最も重要な学会とみなされている。さらに、国際会議の General Chair、学会誌のイメージセンサ特集のエディタを務めており、業界全体に影響を与えている。

埋込フォトダイオード発明を含めた、候補者の業績は高く評価され、政府機関・学会から顕彰されている。

以上のように、候補者は名誉会員に相応しいと考え、ここに推薦する。

2023年度事業計画

1 はじめに（担当：山下総務担当理事）

ウクライナでの戦火はやむことなく新たな年度を迎えました。テレビ放送開始から70年となる節目でもある2023年ですが、社会では急速な情報化・デジタル化が進み、映像や情報を扱う技術の進化が著しい時代となりました。これらの扱いが容易になったことで、さまざまなコンテンツとそれを取り巻くビジネスが生まれ、また老若男女を問わず接触機会も劇的に多くなっています。一方で、虚偽情報やネットいじめなどの問題が生じています。また、生成AI等による映像や音声の合成技術は、制作業務の効率化から、さらに創作活動にまで活用の幅が広がっています。偽の映像のフェイクニュースが流布するなど、映像情報の信頼性に対する不安も高まっています。

このような状況下において、映像情報メディアに関する学理ならびに技術の進歩向上、普及をはかることを目的にする本会はこれまで以上に期待され、また社会課題の解決にも貢献することができるものと考え、2023年度も積極的に活動してまいります。年次大会や研究会、講習会の場を通して、当該分野の技術レベルをなお一層引き上げるとともに、研究者間のネットワーキングを強力にサポートいたします。コロナ禍が終息気配をみせるなか、昨年度から対面開催も復活しており、参加者の利便性に配慮したハイブリッドでの運営手法についても研究を重ね、工夫していきます。研究をスムーズに進めるうえで大変好評なテストチャートの頒布も、引き続き進めていきます。また環境負荷削減や、支出抑制をはかるため、研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」は、2023年度よりオンライン配付に移行します。

多くの学会との共通課題である会員数の増加について、今年度もアカデミックパートナー制度を積極的に展開し、若年時より本会へ興味を抱いていただくことに注力していきます。

3つの基本施策である「学会の活性化」、「新分野の開拓」、「広報活動と会員サービスの拡充」を2022年度はさらに充実させて、学会事業を運営してまいります。

【2023年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2023年度の学会運営体制は、中心メンバーとなる17名の理事と、実行部隊となる目的ごとに設置した11の委員会が、理事会にて情報共有を密に図りながら活動を進めていきます。各委員会は、それぞれ2022年度に取り纏めたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にしながら活発な学会活動と課題解決に取り組みます。また理事会に関しては全理事および監事が出席する定例理事会の開催回数8回を維持し、また、ハイブリッド／リモート開催を積極的に利用して、各理事の負担を緩和しつつ重要案件を集中的に審議するとともに、支部長や代表代議員の参加も求め、理事、支部、代議員一体となった運営を進めていきます。

2022年度の前算は、会費収入減や、オンライン・ハイブリッド開催の増加等を見込み、約1200万円の赤字編成でスタートしましたが、学会のオンライン開催が継続したこと等により予

定より支出が増えず，一方，テストチャート頒布収入が年度当初より堅調な伸びを示したことから，最終的には約 252 万円の黒字で着地しました．2023 年度は，ハイブリッド開催の継続から，昨年度に引き続き赤字予算を編成しているものの，研究会の技術報告の電子化など支出の抑制を図り，赤字幅の抑制に努めます．

学会活性化の最重要課題である会員増のため，大学や高等専門学校等に，研究室単位で会員登録できる「アカデミックパートナー制度」を活用していただくことで，特に若手研究者の会員増に取り組んでいきます．年間 4 万円で 10 名までの学生を登録可能な BASIC 版，半額で 5 名まで登録可能な LITE 版，より多くの人数を登録可能な EXTENSION 版を追加しています．本制度を利用して会員になっていただき，学生のうちから多くの方に学会に興味を持っていただければと思います．

学会の本部と地方支部の連携強化のための施策として，各支部長または支部長代理に理事会へ参加して頂き，理事会での動きを把握して頂くとともに，本部役員が支部大会に参加して直接対話する機会を設け，意識の共有を図ります．ともに，コロナ禍においてのオンライン開催が中心となっているため，face to face の直の意見交換がやりづらいという欠点があるものの，場所，時間による制限が少ないという利点があります．2023 年度はコロナ禍も終息が見えつつあり，対面での会合開催により意見交換の機会がより多くなることが期待されます．年次大会・冬季大会・支部大会といった機会を活かし，支部の運営や課題について本部との共有を図ってまいります．

本会ならではの取り組みであるテストチャートの頒布事業については，2019 年 3 月 15 日より頒布を開始した 4K・8K 映像の超高精細・広色域 HDR 版標準動画像(C シリーズ)が引き続き好評を博しております．2022 年 4 月に頒布を開始した C シリーズ第 2 版の普及に努めます．さらに，高フレームレート版の標準動画像 D シリーズや 22.2 マルチチャンネル標準音源 B シリーズなど続編の制作検討を継続します．

1-2 新分野の開拓

新分野開拓の一環として，国内外の関連学会との連携も引き続き強化してまいります．IEEE と MOU (Memorandum of Understanding) 締結の継続により，各研究委員会と IEEE JC との連携開催に取り組めます．また，韓国放送メディア技術学会 (KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers) における基調講演を担当するほか，本会の年次大会に置いてはジョイントセッションを企画いたします．ディスプレイ国際ワークショップ (IDW2023) の米 SID との共催等，国際連携委員会において検討を進めると共に，他学会との関係維持にも努めます．

また学会誌においては，「ローカル 5G」「トラストという観点からのブロックチェーン技術の応用」など，従来の映像情報メディアの枠にとらわれない，今後の広い活用が見込まれる技術に関して特集を組む予定です．和文論文誌においても，各研究委員会との連携強化のもと，特集号の充実・新テーマの企画に加え，Twitter 及び Facebook 等の新たな媒体を通した論文募集

を継続します。さらに英文論文誌 MTA では、新規テーマの企画とともに幅広く投稿を勧誘し、国際発信力を高めて Impact Factor 取得を目指します。

さらに、持続可能性をテーマとした研究会の開催などの活動により、新たな分野を開拓していきます。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

各種 SNS や学会ホームページ（本部・支部）、メーリングリストを通じた情報発信は、有効な広報手段として 2023 年度も積極的に活用してまいります。業界紙への広告出稿等、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開します。

青少年及び社会に対する啓発普及活動の一環として、一般市民も対象にした無料の公開講演会の開催を年次大会行事として検討しています。また、冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

また図書の企画・刊行活動の一環として、学会誌掲載の連載講座や連載シリーズの単行本化や、学会ホームページでの公開を検討します。「知っておきたいキーワード」

「年報」「きらり．中のヒト」「研究開発ツール」「ベンチャービジネス」は、ホームページでの全文公開を継続します。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

素晴らしい成果を上げている会員の方々に対し引き続き、丹羽高柳賞、鈴木記念奨励賞、技術振興賞、映像情報メディア未来賞、学生優秀発表賞、優秀研究発表賞を贈呈することで、奨励や表彰を行います。またテレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された会員の中から、本会フェローを選定いたします。さらに、長年にわたり在会いただいた会員の方の会費を無料とする制度について、無料対象を拡大する「ライフメンバー制度」の早期開始に向けて、検討を継続します。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：谷口行信）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、年次・冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動画コンテンツなど、Web サイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPでは＜知っておきたいキーワード＞＜年報＞＜きらり．中のヒト＞＜研究開発ツール＞＜ベンチャービジネス＞を、引き続き全文公開いたします。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

昨年度からの申し継ぎの会誌の電子化については、他学会等周りの状況を見つつ、引き続き会誌電子化について検討を進めます。

(冊子体)

巻	号	通巻号	特 集 題 目 案	奥付発行年月日	発行部数
77	3	848	伝統から未来へ：ポスト CMOS への胎動 (アントレプレナー・エンジニアリング 研究委員会題目提案)	2023 年 5 月 1 日	2,900
77	4	849	CG「チョコちゃん」を愛した男（ひと）たち	2023 年 7 月 1 日	2,900
77	5	850	メディアアートの拡張と普遍化	2023 年 9 月 1 日	2,900
77	11	851	トラストという観点からのブロックチェーン技術の応用（北海道支部企画提案）	2023 年 11 月 1 日	2,900
78	1	852	ローカル 5G (九州支部企画提案)	2024 年 1 月 1 日	2,900
78	3	853	ボリュメトリックや自由視点映像の最新 (関西/北陸支部企画提案)	2024 年 3 月 1 日	2,900

(2) 論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会（委員長：安藤慎吾）において、オンラインジャーナルとして冊子体送本と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図り、新たな試みを企画し、論文投稿数、掲載数の確保に努力します。さらには Twitter および学会 Facebook により、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻	月号	特 集 題 目 案	公開年月日
76	5	一般論文	2022 年 5 月 1 日
76	7	一般論文	2022 年 7 月 1 日
76	9	一般論文	2022 年 9 月 1 日
76	11	ディスプレイ-IDW' 21 を中心にー	2022 年 11 月 1 日
77	1	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文 (招待論文)	2023 年 1 月 1 日
77	3	一般論文	2023 年 3 月 1 日

②英語論文（MTA）

MTA編集委員会（委員長：安藤慎吾）において、会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications（略称、MTA）」を編集、年4回発行し、会誌発行日と同時期に全文を一般公開します。内容については、毎号特集を中心に企画し、下記を予定しています。また、新たな試みを企画し、幅広く投稿勧誘を行うなど、一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します。さらに、MTAの引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行い、Impact Factor 取得を目指して努力します。

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol.10, No.3	Multimedia Transmission Technology and Its Applications	2022 年 7 月 1 日
Vol.10, No.4	IDW' 21	2022 年 10 月 1 日
	Extended Editions of IEEE ICCE and ICCE-Taiwan Submitted Papers	
Vol.11, No.1	2022 ITE Award Selection	2023 年 1 月 1 日
Vol.11, No.2	3D Media Technology	2023 年 4 月 1 日

（3）大会講演予稿集の発行

①年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。

参加予定人数：300 名

②冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。

参加予定人数：200 名

（4）研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」（Webダウンロード版）を約40分冊発行します。

3. 調査研究活動（定款 第4条（3））

学会の最も基本的な活動である研究活動については、最近の急速な技術の進展に対処するため、例年以上に積極的に推進します。

技術委員会（委員長：相澤清晴）において、広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し、研究委員会の活動を統轄調整し、その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても、鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は、会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。2020年度より参加費が有料となりました。予稿はWEBダウンロード配布いたします。また、定期購読者に有料頒布していた研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」は、2022年度をもって冊子体の作成・発行を終了し、2023年度よりオンライン配付に移行します。

5月以降は、現地開催、ハイブリッド開催、オンライン開催等の研究会開催形態を適宜選択し、実施することとします。

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：池辺将之（北海道大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 5月18日 ～19日	三重（ハイブリッド）	マルチモーダル認証，信号・映像・マルチメディアデータの取得・処理・解析と応用	24件	20～30名
6月21日	東京	固体撮像技術	未定	20～30名
8月1日 ～3日	北海道	イメージセンサのインタフェース回路，アナログ回路	未定	20～30名
9月	東京 or オンライン	イメージセンサ	未定	20～30名
11月	東京 or オンライン	新機能光学素子とイメージセンサ	未定	20～30名
2024年 2月	東京 or オンライン	赤外線センサ（赤外放射の応用関連学会）	未定	20～30名
3月	東京 or オンライン	固体撮像技術	未定	20～30名

「情報ディスプレイ研究会」委員長：石鍋隆宏（東北大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 8月	未定	ディスプレイ	未定	20～30名
10月	未定	画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター	未定	20～30名
11月	未定	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2024年 1月	未定	発光型・非発光型ディスプレイ	未定	20～30名
3月	未定	ディスプレイ技術シンポジウム	未定	20～30名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：町田賢司（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 6月8日 9日	宮城（ハイブリッド）	記録システム	未定	20～30名
10月	未定	スピントロニクス・固体メモリ	未定	20～30名
12月7日 8日	愛媛	信号処理・磁気記録	未定	20～30名
2024年 2月	北海道	画像処理，映像メディア	未定	20～30名

「放送技術研究会」委員長：村田英一（山口大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 6月9日	東京（ハイブリッド）	番組制作技術・送出技術	未定	20～30名
7月27日 28日	北海道	放送現業技術・送受信技術	未定	20～30名
9月1日	愛媛	移動送受信技術	未定	20～30名
10月12日 13日	山口	放送・通信連携，知的マルチメディア処理システム等	未定	20～30名

10月27日	東京	放送設備見学会：テレビ東京	未定	20～30名
11月9日 10日	九州	放送技術，有線技術，光技術等	未定	20～30名
2024年 1月25日 26日	九州	アンテナ・伝搬，マイクロ波における学生 若手発表	未定	20～30名
2月15日 16日	愛知	学生・若手発表	未定	20～30名
3月8日	沖縄	デジタル放送技術	未定	20～30名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：原澤賢充（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 5月31日 ～6月1日	東京（ハイブリッド）	人工現実感，エンタテインメント，メディア エクスペリエンス	38件	20～30名
10月	和歌山	視聴覚，VR	未定	20～30名
2024年 2月	沖縄	聴覚，視覚，VR	未定	20～30名
3月	オンライン	視聴覚	未定	20～30名

「メディア工学研究会」委員長：新井啓之（日本工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 5月18日 ～19日	三重（ハイブリッド）	マルチモーダル認証，信号・映像・マルチ メディアデータの取得・処理・解析と応用	24件	20～30名
7月21日	オンライン	画像処理・マルチメディア情報処理・イン タフェースとその応用	未定	20～30名
9月	未定	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未定	20～30名
9月	未定	マルチメディア通信／システム，ライフログ 活用技術，IP放送／映像伝送，メディア セキュリティ，メディア処理（AI，深 層学習）	未定	20～30名
12月	未定	メディア処理技術とその応用	未定	20～30名
2024年 1月	未定	IWAIT2024	未定	20～30名
2月	北海道	ITS画像処理，映像メディア	未定	20～30名
2月	神奈川	学生研究発表会	未定	20～30名

「映像表現&コンピュータグラフィックス研究会」委員長：名手久貴（東京工芸大）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 6月3日 ～4日	東京（ハイブリッド）	画像一般（色再現，立体映像，CG，VR，ア ニメーション技術，画像処理，ME 関係，画 像符号化）	未定	20～30名
9月	東京 or オンライン	立体映像及びホログラフィ	未定	20～30名
11月	東京 or オンライン	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2024年 1月	未定	IWAIT2024	未定	20～30名
2月	北海道	ITS画像処理，映像メディア	未定	20～30名
3月	東京 or オンライン	映像表現・芸術科学フォーラム2024	未定	20～30名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：上田哲三（パナソニック インダストリー）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 9月	東京	社会的インパクトを考慮した持続可能性	未 定	20～30 名
2024年 3月	東京	起業工学から見たイノベーションに関する研究	未 定	20～30 名

「立体メディア技術研究会」委員長：掛谷英紀（筑波大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2023年 8月	東京 or オンライン	シンポジウム	未 定	20～30 名
9月	東京 or オンライン	立体映像およびホログラフィー	未 定	20～30 名
10月	東京 or オンライン	立体映像技術	未 定	20～30 名
10月	東京 or オンライン	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未 定	20～30 名
11月	東京 or オンライン	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2024年 3月	東京 or オンライン	立体の視覚・生体, コンテンツ, アプリケーション, 立体映像技術	未 定	20～30 名

「スポーツ情報処理研究会」委員長：角田 貢（日体大）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2024年 3月	未定	未定	未 定	20～30 名

4. 大会、講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し、会員のみならず、広くわが国の技術レベルを高めるべく、適正規模で開催します。

（1）2023 年度年次大会（主催）

2023 年 8 月 30 日～9 月 1 日の 3 日間、東京理科大学 葛飾キャンパスにおいて開催します。Z o o m を併用したハイブリッド開催を予定しています。このための実行委員会（委員長 苗村 健／副会長）を置き、運営にあたります。

（2）2023 年度冬季大会（主催）

実行委員会（委員長 境田慎一／副会長）を置き、時期・場所の検討を進めるとともに、大会の運営にあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み、国外との交流を図ります。

（1）IEEE と MOU(Memorandum of Understanding) 締結の継続により各研究委員会と IEEE JC との連携開催に取り組みます。

（2）KIBME(韓国メディア学会)とのジョイントセッションを 2023 年度年次大会の企画セッションとして開催します。

- (3) KIBME(韓国メディア学会)が2023年11月中旬に主催するKIBME FALL CONFERENCE 2023の基調講演を本会が担当します。
- (4) 第30回ディスプレイ国際ワークショップ(IDW2023)(共催)
2023年12月6日～8日の3日間、朱雀メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、アメリカSIDと共催します。

6. ITEテストチャートの作成・頒布(定款 第4条(2))

ITEテストチャート委員会(委員長：日下部裕一)を中心に次の事業展開を行います。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査：松田一朗), ARIBと共同で超高精細・広色域標準動画像Dシリーズ(HFR：ハイフレームレート版, 8K120P, 240P)の検討を継続します。また、2022年4月に頒布を開始した「超高精細・広色域HDR版標準動画像第2版」の普及に努めます。
- (2) 3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査 小野一穂), ARIBと共同でオブジェクトベース標準音源について継続検討し、頒布開始を目指します。

7. 図書の刊行・企画(定款 第4条(2)項)

編集委員会(編集長：谷口行信)は、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は、会員サービスとして、学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰(定款 第4条(5))

(1) 学会賞関係

選奨委員会(委員長：苗村 健/副会長)において、本会にふさわしい選奨のありかた、選定方法等について検討を行います。その結論に基づき、丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し、贈呈いたします。また年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象に、それぞれの大会実行委員会で選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は、各研究委員会が選定し、「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

①丹羽高柳賞：功績賞：2名以内

〃 業績賞：2件以内

〃 論文賞：3編以内

②鈴木記念奨励賞：5名以内

③技術振興賞：進歩開発賞(現場運用部門)：3件以内

〃 進歩開発賞(研究開発部門)：3件以内

〃 コンテンツ技術賞：3件以内

④映像情報メディア未来賞：3件以内

- "

フェロー選定委員会（委員長：境田慎一／副会長）において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された正会員の中から、フェロー選出規程第13条第1項「単年度に選出されるフェロー会員数については、正会員および名誉会員の合計数の0.2%程度を上限とする。」に基づき、フェロー会員を認定します。

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）の開催を、２０２３年年次大会行事として検討しています。また、２０２３年度冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

- (1) 第70回定時社員総会：2024年5月31日(金)開催
- (2) 理事会：6月・7月・10月・12月・1月・3月・4月・5月の8回開催
(年3回、会長が指名する代表代議員の参加を予定、また支部長にはオンラインによる参加を要請)
- (3) 広報委員会：随時開催
- (4) 編集関係委員会
 - ①編集委員会（企画委員会）：年7回開催
 - ②同（年次企画委員会）：年3回開催
 - ③同（海外文献部門委員会）：文献調査はメール審議で行い、議案があれば委員会を開催
 - ④同（ニュース部門委員会）：記事選定のみの場合はメール審議、議案があれば委員会を開催
- (5) 論文委員会（和文論文運営委員会、英語論文運営委員会）：6月・10月・2月の3回開催
- (6) 技術委員会：4月～3月の期間に3回～4回開催
- (7) 選奨関係委員会
 - ①選奨委員会：第1回会議を11月に開催し、前年度中継事項および諸課題を検討
 - ②「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3月に開催
 - ③「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3月に開催（地方開催予定）
 - ④映像情報メディア未来賞選考専門部会：3月に開催
 - ⑤「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考
※功績賞・業績賞は推薦件数により1回または2回投票、論文賞は1回投票
 - ⑥鈴木記念奨励賞の選考（2回投票）
- (8) フェロー選定委員会：2回開催（推薦締切を12月末、第1回委員会は1月開催予定）

- (9) テストチャート委員会：随時開催
 - (10) 国際連携委員会
 - ①2023 年年次大会「KIBME とのジョイントセッション」開催
 - ②その他，海外学会との交流
 - (11) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催
 - (12) 長期計画検討委員会：随時開催
 - (13) 電気・情報関連学会連絡協議会：7 月と 1 月の年 2 回開催
- 以上

2023年度予算報告書

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用取利益	25,000	25,000	0
基本財産受取利益	25,000	25,000	0
特定資産運用取利益	400,000	400,000	0
特定資産受取利益	400,000	400,000	0
受取収入会取金	20,000	20,000	0
受取収入会金	20,000	20,000	0
受取会費	46,340,000	48,160,000	-1,820,000
正学学生会費	23,500,000	25,200,000	-1,700,000
維持持分会費	21,100,000	21,300,000	-200,000
特殊持分会費	660,000	700,000	-40,000
アカデミックパートナー	1,080,000	960,000	120,000
事業収益	21,517,000	22,306,000	-789,000
会誌関係係収入	3,687,000	3,460,000	227,000
会誌頒布収入	900,000	900,000	0
年次大会収入	3,000,000	3,000,000	0
冬季大会収入	1,200,000	1,200,000	0
講習会収入	710,000	500,000	210,000
研究會収入	2,000,000	1,000,000	1,000,000
技術報告係収入	2,500,000	5,726,000	-3,226,000
図書関係係収入	0	0	0
リストカット収入	7,520,000	6,520,000	1,000,000
受取寄付金	500,000	500,000	0
発展事業寄付金	500,000	500,000	0
雑収利益	201,000	201,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
雑収	200,000	200,000	0
経常収益計	69,003,000	71,612,000	-2,609,000
(2) 経常費用			
事業費	53,107,200	60,048,500	-6,941,300
給料手当金	18,938,500	18,938,300	200
派遣賃金	693,000	680,000	13,000
福利厚生費	2,274,800	2,274,800	0
旅費	680,000	700,000	-20,000
通信運搬費	3,062,500	3,722,900	-660,400
消耗品費	1,234,600	1,189,600	45,000
修繕費	50,000	200,000	-150,000
印刷製本費	8,770,000	15,401,500	-6,631,500
賃借料	5,741,000	6,025,000	-284,000
支払リース料	633,200	633,300	-100
諸会謝礼金	1,167,000	940,000	227,000
支会謝礼金	860,000	798,000	62,000
支払謝金	920,000	785,000	135,000
支会謝金	10,000	0	10,000
広報宣伝費	290,000	100,000	190,000
委託費	4,607,000	4,518,400	88,600
図書費	970,000	900,000	70,000
雑法入税等	205,600	241,700	-36,100
管法人税等	2,000,000	2,000,000	0
給料手当費	23,917,800	23,468,600	449,200
派遣賃金	8,061,600	8,062,000	-400
派遣賃金	500,000	250,000	250,000
退職給付費用	0	450,000	-450,000
福利厚生費	925,200	975,200	-50,000
旅費	332,000	272,000	60,000
通信運搬費	287,500	271,300	16,200
消耗品費	350,400	285,000	65,400
修繕費	255,000	255,000	0
賃借料	1,508,100	1,508,100	0
支払リース料	366,700	367,000	-300
諸会費	200,000	200,000	0
租税公課	100,000	100,000	0
支会謝金	1,291,000	1,306,000	-15,000
支払謝金	350,000	350,000	0
広報宣伝費	328,000	329,000	-1,000
委託費	5,045,000	5,045,000	0
雑費	467,300	423,000	44,300
W e b - I T	2,200,000	2,100,000	100,000
会員管理費	600,000	600,000	0
発展事業資金	250,000	250,000	0
法人業税等	500,000	70,000	430,000
経常費用計	77,025,000	83,517,100	-6,492,100
評価損益等調整前当期経常増減額	-8,022,000	-11,905,100	-3,883,100
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-8,022,000	-11,905,100	-3,883,100
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-8,022,000	-11,905,100	-3,883,100
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	-8,022,000	-11,905,100	-3,883,100
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	-8,022,000	-11,905,100	-3,883,100

収支予算書内訳表

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人映像情報メディア7学会

科 目	実施事業				その他会計(収)		
	会誌関係事業	研究会関係事業	表彰、コンクール	共通	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用取	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
特定資産受取金	140,000	80,000	60,000	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0
正学取会費	0	0	0	0	0	0	0
維持特殊会費	0	0	0	0	0	0	0
アカデミックパートナー	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	3,687,000	2,000,000	0	0	2,500,000	0	7,520,000
会誌頒布収入	3,687,000	0	0	0	0	0	0
年次大会収入	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収入	0	0	0	0	0	0	0
講習会収入	0	0	0	0	0	0	0
研究報告収入	0	2,000,000	0	0	0	0	0
技術報告収入	0	0	0	0	2,500,000	0	0
テストチャート収入	0	0	0	0	0	0	7,520,000
本部交付金	0	0	0	0	0	0	0
研究会等補助金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	3,827,000	2,080,000	60,000	0	2,500,000	0	7,520,000
(2) 経常費用							
事業費	21,980,400	4,620,500	2,025,700	160,000	80,000	0	540,000
給料手当	3,694,200	561,000	982,300	0	0	0	0
派遣賃金	300,000	193,000	0	0	0	0	0
福利厚生費	493,600	75,000	131,200	0	0	0	0
旅交通費	10,000	100,000	0	0	0	0	10,000
通信費	2,282,200	158,900	62,500	0	80,000	0	180,000
消耗品費	409,500	101,400	192,600	0	0	0	100,000
修繕費	50,000	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	8,280,900	100,000	0	0	0	0	10,000
賃借料	942,400	2,443,000	583,900	0	0	0	0
支払リース料	273,500	41,500	72,700	0	0	0	0
諸会費	30,000	200,000	0	0	0	0	0
分会費	0	200,000	0	0	0	0	0
支払分助金	0	0	0	0	0	0	0
支払分助金	0	0	0	0	0	0	0
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	240,000
図書費	4,442,000	125,000	0	0	0	0	0
雑費	770,000	200,000	0	0	0	0	0
法人税等	2,100	121,700	500	0	0	0	0
管理費	0	0	0	160,000	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0
旅交通費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0
諸会費	0	0	0	0	0	0	0
分会費	0	0	0	0	0	0	0
支払分助金	0	0	0	0	0	0	0
支払分助金	0	0	0	0	0	0	0
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	0
図書費	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	0
W eb管理費	0	0	0	0	0	0	0
支部交入金	0	0	0	0	0	0	0
支払事業資金	0	0	0	0	0	0	0
法人税	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	21,980,400	4,620,500	2,025,700	160,000	80,000	0	540,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-18,153,400	-2,540,500	-1,965,700	-160,000	2,420,000	0	6,980,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-18,153,400	-2,540,500	-1,965,700	-160,000	2,420,000	0	6,980,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-18,153,400	-2,540,500	-1,965,700	-160,000	2,420,000	0	6,980,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-18,153,400	-2,540,500	-1,965,700	-160,000	2,420,000	0	6,980,000
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-18,153,400	-2,540,500	-1,965,700	-160,000	2,420,000	0	6,980,000

(単位：円)

会誌頒布	共通	その他会計(公)				法人会計	本部合計	支部合計	内部消去	合 計
		年次大会	冬季大会	講演会	共通	法人会計			一般事業	
0	0	0	0	0	0	25,000	25,000	0	0	25,000
0	0	0	0	0	0	25,000	25,000	0	0	25,000
0	0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	0	120,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	46,340,000	46,340,000	0	0	46,340,000
0	0	0	0	0	0	23,500,000	23,500,000	0	0	23,500,000
0	0	0	0	0	0	21,100,000	21,100,000	0	0	21,100,000
0	0	0	0	0	0	660,000	660,000	0	0	660,000
0	0	0	0	0	0	1,080,000	1,080,000	0	0	1,080,000
900,000	0	3,000,000	1,200,000	0	0	0	20,807,000	6,783,000	-6,073,000	21,517,000
0	0	0	0	0	0	0	3,687,000	0	0	3,687,000
900,000	0	0	0	0	0	0	900,000	0	0	900,000
0	0	3,000,000	0	0	0	0	3,000,000	0	0	3,000,000
0	0	0	1,200,000	0	0	0	1,200,000	0	0	1,200,000
0	0	0	0	0	0	0	0	710,000	0	710,000
0	0	0	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	0	0	2,500,000	0	0	2,500,000
0	0	0	0	0	0	0	7,520,000	0	0	7,520,000
0	0	0	0	0	0	0	0	6,043,000	-6,043,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	-30,000	0
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	201,000	201,000	0	0	201,000
0	0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
900,000	0	3,000,000	1,200,000	0	0	47,206,000	68,293,000	6,783,000	-6,073,000	69,003,000
0	14,059,000	1,700,000	800,000	0	4,699,600	0	50,665,200	2,442,000	0	53,107,200
0	9,895,200	0	0	0	3,805,800	0	18,938,500	0	0	18,938,500
0	0	150,000	50,000	0	0	0	693,000	0	0	693,000
0	1,137,500	0	0	0	437,500	0	2,274,800	0	0	2,274,800
0	0	300,000	0	0	0	0	420,000	260,000	0	680,000
0	17,200	60,000	80,000	0	6,700	0	2,927,500	135,000	0	3,062,500
0	8,000	90,000	210,000	0	3,100	0	1,114,600	120,000	0	1,234,600
0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	0	50,000
0	21,000	150,000	10,000	0	8,100	0	8,580,000	190,000	0	8,770,000
0	954,600	400,000	50,000	0	367,100	0	5,741,000	0	0	5,741,000
0	177,300	0	0	0	68,200	0	633,200	0	0	633,200
0	0	250,000	300,000	0	0	0	780,000	387,000	0	1,167,000
0	0	200,000	90,000	0	0	0	490,000	370,000	0	860,000
0	0	0	0	0	0	0	0	920,000	0	920,000
0	0	0	0	0	0	0	0	10,000	0	10,000
0	0	50,000	0	0	0	0	290,000	0	0	290,000
0	0	0	0	0	0	0	4,567,000	40,000	0	4,607,000
0	0	0	0	0	0	0	970,000	0	0	970,000
0	8,200	50,000	10,000	0	3,100	0	195,600	10,000	0	205,600
0	1,840,000	0	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	0	25,649,800	25,649,800	4,341,000	-6,073,000	23,917,800
0	0	0	0	0	0	8,061,600	8,061,600	0	0	8,061,600
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	925,200	925,200	0	0	925,200
0	0	0	0	0	0	150,000	150,000	182,000	0	332,000
0	0	0	0	0	0	172,500	172,500	115,000	0	287,500
0	0	0	0	0	0	315,400	315,400	35,000	0	350,400
0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	205,000	0	255,000
0	0	0	0	0	0	1,508,100	1,508,100	0	0	1,508,100
0	0	0	0	0	0	366,700	366,700	0	0	366,700
0	0	0	0	0	0	200,000	200,000	0	0	200,000
0	0	0	0	0	0	100,000	100,000	0	0	100,000
0	0	0	0	0	0	455,000	455,000	836,000	0	1,291,000
0	0	0	0	0	0	0	0	350,000	0	350,000
0	0	0	0	0	0	328,000	328,000	0	0	328,000
0	0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000	2,545,000	0	5,045,000
0	0	0	0	0	0	394,300	394,300	73,000	0	467,300
0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000	0	0	2,200,000
0	0	0	0	0	0	600,000	600,000	0	0	600,000
0	0	0	0	0	0	6,073,000	6,073,000	0	-6,073,000	0
0	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	250,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	14,059,000	1,700,000	800,000	0	4,699,600	25,649,800	76,315,000	6,783,000	-6,073,000	77,025,000
900,000	-14,059,000	1,300,000	400,000	0	-4,699,600	21,556,200	-8,022,000	0	0	-8,022,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-14,059,000	1,300,000	400,000	0	-4,699,600	21,556,200	-8,022,000	0	0	-8,022,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-14,059,000	1,300,000	400,000	0	-4,699,600	21,556,200	-8,022,000	0	0	-8,022,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-14,059,000	1,300,000	400,000	0	-4,699,600	21,556,200	-8,022,000	0	0	-8,022,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
900,000	-14,059,000	1,300,000	400,000	0	-4,699,600	21,556,200	-8,022,000	0	0	-8,022,000

2023年度 予算 -支部合算-

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	6,043,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	710,000	
連合大会	0	
講習会収入	710,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
年次大会	0	
雑収入	0	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	6,783,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	2,997,000	
連合関係費	810,000	
講習会費	410,000	
講演会費	730,000	
見学会費	250,000	
研究会費	162,000	
年次大会費	80,000	
支部ホームページ	205,000	
その他事業費	350,000	
管理費支出	3,786,000	
交通費	182,000	
通信費	115,000	
消耗品費	35,000	
会議費	13,000	
総会費	316,000	
役職会費	180,000	
支部長会議費	327,000	
委託経費	2,545,000	
雑費	73,000	
事業活動費支出計	6,783,000	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種発基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2023年度 予算 -支部

	2022年(参考)	550,000	517,000	320,000	400,000	3,010,000
科 目	北海道	東北	北陸	東海	関西	
I. 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
本部交付金	550,000	484,000	320,000	400,000	2,980,000	
研究会等補助金収入	0	0	0	0	30,000	
事業収入	0	0	0	0	710,000	
連合大会	0	0	0	0	0	
講習会収入	0	0	0	0	710,000	
講演会収入	0	0	0	0	0	
見学会収入	0	0	0	0	0	
年次大会	0	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	0	
連合大会繰入金	0	0	0	0	0	
事業活動収入計	550,000	484,000	320,000	400,000	3,720,000	
2. 事業活動支出						
①事業費支出	400,000	377,000	130,000	320,000	1,000,000	
連合関係費	100,000	130,000	30,000	40,000	200,000	
講習会費	0	10,000	0	0	400,000	
講演会費	300,000	110,000	40,000	30,000	70,000	
見学会費	0	40,000	0	200,000	10,000	
研究会費	0	12,000	30,000	0	0	
年次大会費	0	30,000	0	0	0	
支部ホームページ	0	5,000	0	0	200,000	
その他事業費	0	40,000	30,000	50,000	120,000	
②管理費支出	150,000	107,000	190,000	80,000	2,720,000	
交通費	0	2,000	40,000	20,000	0	
通信費	5,000	10,000	10,000	0	25,000	
消耗品費	5,000	5,000	0	5,000	0	
会議費	0	3,000	0	0	0	
総会費	5,000	54,000	80,000	20,000	70,000	
役職会費	10,000	5,000	25,000	5,000	75,000	
支部長会議費	120,000	22,000	25,000	20,000	0	
委託経費	5,000	3,000	10,000	10,000	2,500,000	
雑費	0	3,000	0	0	50,000	
事業活動支出計	550,000	484,000	320,000	400,000	3,720,000	
事業活動収支差額	0	0	0	0	0	
II. 投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
各種基金取崩収入	0	0	0	0	0	
引当金戻入収入	0	0	0	0	0	
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	0	0	
2. 投資活動支出						
各種基金取得支出	0	0	0	0	0	
引当預金繰入支出	0	0	0	0	0	
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	0	
III. 財務活動収支の部						
1. 財務活動収入	0	0	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	
IV. 予備費支出	0	0	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	0	0	
次期繰越金	0	0	0	0	0	
収支差額	0	0	0	0	0	

明細

(単位:円)

[illegible]

2022年度役員・委員等名簿

(2023年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
会 長	伊 丹 誠	東京理科大学	代議員	河 村 圭	KDDI総合研究所
次期会長	児 玉 圭司	N H K	〃	河 村 広幸	N H K 広島
副 会 長	岩 城 正和	N H K	〃 *	小 濱 剛雄	近畿大学
〃	塩 入 聡	東北大学	〃 *	齋 藤 英	慶應義塾大学
〃	苗 村 健之	東京大学	〃	坂 井 剛一	九州朝日放送
〃	吉 田 俊	福井大学	〃	佐 藤 真	国立情報学研究所
編 集 長	谷 口 行	東京理科大学	〃	重 岡 知	N H K 松山
総務担当	川 田 亮	KDDI総合研究所	〃	杉 浦 孝	N H K 福岡
〃	山 下 誉	N H K	〃	関 口 正	住友電気工業
会計担当	志 水 信	N T T	〃	高 田 健	北海道テレビ
〃	上 原 伸	A G C	〃	高 橋 司	北海道大学
調査担当	倉 掛 卓	N H K	〃	田 中 孝	K D D I
〃	笹 出 晋	フジテレビ	〃	近 松 仁	中京テレビ
編集担当	橋 本 直	電気通信大学	〃 *	塚 都 敏	愛知工業大学
〃	河 合 吉	N H K	〃	都 築 俊	N H K
企画担当	徳 田 智	東京工業大学	〃	杜 海 彰	京都工芸繊維大学
〃	和 泉 義	日本テレビ	〃	東 村 俊	福井大学
監 事	出 葉 治	LG Japan Lab	〃	中 名 久	N H K 富山
〃	池 田 哲	NHKテクノロジーズ	〃	名 手 宏	東京工芸大学
代 議 員	洗 井 淳	N H K	〃 *	野 中 正	テレビ愛媛
〃	安 藤 慎	湘南工科大学	〃 *	平 田 英	朝日放送テレビ
〃 *	池 辺 将	北海道大学	〃	藤 掛 夫	東北大学
〃	石 井 紀	N H K	〃	星 沢 拓	日立LG データストレージ
〃	石 橋 豊	名古屋工業大学	〃	町 田 賢	N H K
〃	伊 藤 泰	NHKエンジニアリングシステム	〃 *	松 井 繁	毎日放送
〃	上 田 哲	パナソニック	〃	三ッ峰 秀	NHKエンジニアリングシステム
〃	大 川 裕	N H K	〃	村 田 英	山口大学
〃	尾 関 孝	福山大学	〃	村 松 正	新潟大学
〃	掛 谷 英	筑波大学	〃	吉 見 智	N H K 仙台
〃 *	片 野 興	北海道文化放送			

(2) テストチャート委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	井 口 和 久	N H K	委 員	山 下 誉 行	N H K
代表幹事	倉 掛 卓 也	N H K	〃	河 合 吉 彦	N H K
委 員	笹 出 晋 司	フジテレビ	〃	岩 鼻 幸 男	事務局 長

(3) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	吉 田 俊 之	東北大学	委 員	上 原 伸 一	A G C
代表幹事	志 水 信 哉	N T T	〃	倉 掛 卓 也	N H K
委 員	山 下 誉 行	N H K	〃	笹 出 晋 司	フジテレビ

(4) 広報委員会 (WebIT 化委員会統合)

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	苗 村 健	東京大学	委 員	山 下 誉 行	N H K
代表幹事	徳 田 崇	東京工業大学	〃	和 泉 智 志	日本テレビ

(5) 国際連携委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	徳 田 崇	東京工業大学	委 員	川 田 亮 一	KDDI総合研究所
代表幹事	和 泉 智 志	日本テレビ	〃	笹 出 晋 司	フジテレビ

(6) 長期計画検討委員会 (学会活性化委員会統合)

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 代表幹事	滝 嶋 康 弘 川 田 亮 一	KDDI 総合研究所 KDDI 総合研究所	幹 事 委 員	徳 田 崇 哉 志 水 信 哉	東 京 工 業 大 学 N T T

(7) 代議員選挙委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 委 員	伊 藤 崇 之 夫 会 津 昌 夫	N H K - E S リ ア ン	委 員 "	本 間 康 文 男 岩 鼻 幸 男	N E C 事 務 局 長

(8) 電気・情報関連学会連絡協議会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員	川 田 亮 一	KDDI 総合研究所	委 員	山 下 誉 行	N H K

(9) フェロー選定委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	苗 村 健 之 行	東 京 大 学	委 員	斎 藤 恭 一	N H K
副委員長	苗 吉 田 俊 之 行	福 井 大 学	"	斎 永 井 岳 大 之 貴	東 京 工 業 大 学
幹 事	山 下 誉 之 行	N H K	"	新 井 啓 久	日 本 工 業 大 学
委 員	池 辺 将 友 興	北 海 道 大 学	"	新 名 手 田 哲 三	東 京 工 芸 大 学
(代議員)	片 野 友 興	北 海 道 文 化 放 送	"	上 掛 谷 英 紀	パ ナ ソ ニ ッ ク
"	坂 井 剛 一	九 州 朝 日 放 送	"	掛 角 田 貢 浩	筑 波 大 学
(研究委員会)	秋 田 純 一 宏	金 沢 大 学	"	大 竹 浩 之	日 本 体 育 大 学
"	石 鍋 隆 賢 司	東 北 大 学	(フェロー)	大 高 村 誠	ナ ノ ル ク ス → フ リ ー
"	町 田 賢 司	N H K	"	高 村 誠 之	N T T / 法 政 大 学

(10) 名誉会員

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
泉 武 博 伊 東 晋 一 岩 崎 俊 一 内 田 龍 男 江 藤 良 純 榎 並 和 雅 大 久 保 榮 奥 田 友 彌 小 沢 慎 治	小 野 寺 正 雄 金 出 武 雄 久 保 田 啓 一 沢 辺 栄 一 末 松 安 晴 関 詳 行 高 畑 文 雄 武 田 康 嗣 谷 岡 健 吉	谷 本 正 幸 永 井 研 二 中 嶋 正 之 中 村 宏 久 中 村 慶 次 西 澤 台 一 西 山 博 伸 長 谷 川 明 長 谷 川 豊 明	羽 鳥 光 俊 羽 鳥 好 律 濱 崎 襄 二 林 崎 宏 三 原 島 博 彦 吹 拔 敬 己 村 上 仁 稔 森 尾 浩 浩 安 田 浩 浩	矢 野 薫 山 田 宰 山 本 英 雄 吉 野 武 彦 Carlos A. Paz de Araújo David Wood Om. P. khushu

(11) 北海道支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	片 野 友 興	北海道文化放送	運 営 委 員	樹 山 英 則	北海道テレビ放送
庶 務 幹 事	加 藤 慎 太 郎	札幌テレビ放送	〃	三 浦 裕 之	北海道文化放送
〃	柴 田 貴 裕	N H K 札 幌	〃	高 橋 康 二	北海道テレビ
会 計 幹 事	土 橋 宜 典	北海道大学	〃	和 田 直 史	北海道科学大学
〃	木 村 敏 文	北海道放送	〃	青 木 勇 司	総務省北海道総合通信局
運 営 委 員	青 山 智 一	N H K 札 幌			

(12) 東北支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	藤 掛 英 夫	東北大学	運 営 委 員	塩 谷 達	N H K 仙 台
庶 務 幹 事	金 義 鎮	東北学院大学	〃	芝 田 正	東北放送
〃	松 尾 英 一	N H K 仙 台	〃	嶋 田 辰	日本大学
会 計 幹 事	嵯 峨 智 泉	仙台放送	〃	鈴 木 彦	東北インテリジェント通信
〃	吉 見 智 文	N H K 仙 台	〃	須 田 也	秋田テレビ
運 営 委 員	荒 木 博 和	東北総合通信局	〃	関 橋 拓	八戸工業大学
〃	加 藤 純 雄	ダイヤモンド・パートナーズ	〃	高 橋 勝	東日本放送
〃	加 藤 毅 博	宮城テレビ放送	〃	原 秀 宗	岩手朝日テレビ
〃	木 戸 栄 博 亮	東北工業大学	〃	星 敏 裕	福島テレビ
〃	工 藤 理 人	東北工業大学	〃	峰 田 宏	山形放送
〃	黒 田 昭 諭	東北大学	〃	村 岡 明	山 北 大 学
〃	佐々木 徳	N H K 仙 台	〃	山 形 聡	青 森 テ レ ビ
〃	塩 入	東 北 大 学			

(13) 北陸支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	東 海 彰 吾	福 井 大 学	運 営 委 員	長 田 茂 美	金 沢 工 業 大 学
庶 務 幹 事	大 島 圭 司	N H K 金 沢	〃	吉 高 淳 夫	北陸先端科学技術大学院大学
〃	阿 部 雅 夫	N H K 金 沢	〃	齋 藤 健 之	N T T 西 日 本
会 計 幹 事	中 村 俊 弘	N H K 富 山	〃	石 林 雅 伸	北 陸 放 送
〃	大 須 賀 弘	N H K 富 山	〃	柳 原 司	富 山 テ レ ビ
運 営 委 員	高 松 之 衛	富 山 大 学	〃	山 本 実	北 日 本 放 送
〃	秋 田 純 一	富 金 沢 大 学	〃	森 田 栄	N H K 金 沢
〃	吉 田 俊 一	福 井 大 学	〃	辻 合 秀	富 山 大 学

(14) 東海支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	吉 田 征 彦	中 京 テ レ ビ	運 営 委 員	宗 政 幹 彦	総務省東海総合通信局
庶 務 幹 事	祖 父 江 貴 彦	N H K 名 古 屋	〃	近 松 仁 志	中京テレビ放送
〃	中 野 誠 一	総務省東海総合通信局	〃	塚 田 敏 彦	愛知工業大学
会 計 幹 事	大 日 川 聡 和	C B C テ レ ビ	〃	都 村 竹 愛 一 郎	名城大学
〃	西 川 一 宏	N H K 名 古 屋	〃	村 田 博 二	三重大学
運 営 委 員	青 木 徹 豊	静岡岡大学	〃	広 沢 郎 彦	テレビ愛知
〃	石 橋 利 豊	名古屋工業大学	〃	濱 千 代 治	名古屋テレビ放送
〃	服 部 正 春	日本CATV技術協会	〃	浦 野 彦 彰	静岡岡放送
〃	白 井 哲 嗣	東海テレビ放送	〃	藤 井 俊 正	名古屋大学
〃	田 村 敏 秋	岐 阜 大 学	〃	櫻 井	C B C テ レ ビ
〃	服 部	N H K 名 古 屋			

(15) 関西支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	鍋 沢 由 修	朝日放送テレビ	運 営 委 員	藤 田 玄	大阪電気通信大学
庶 務 幹 事	杜 偉 薇	京都工芸繊維大学	〃	境 政 志	N H K 大 阪
〃	平 田 正 信	朝日放送テレビ	〃	山 本 真 一 郎	兵 庫 県 立 大 学
会 計 幹 事	森 本 雅 和	兵 庫 県 立 大 学	〃	酒 澤 茂 之	大 阪 工 業 大 学
〃	松 井 雅 和	毎 日 放 送	〃	塩 崎 光 雄	パナソニックコネクト
運 営 委 員	富 吉 繁 暎	シ ャ ー プ	〃	関 口 正 巳	住 友 電 気 工 業
〃	宮 崎 大 介	大 阪 公 立 大 学	〃	Siriaraya Panote	京 都 工 芸 繊 維 大 学
〃	中 屋 敷 安 則	総務省近畿総合通信局	〃	宮 本 伸 一	和 歌 山 大 学
〃	小 野 木 晋	讀 賣 テ レ ビ 放 送	〃	福 田 雅 哉	毎 日 放 送
〃	並 川 巖 大	関 西 テ レ ビ 放 送	〃	浦 西 友 樹	大 阪 大 学
〃	中 谷 信 大	朝 日 放 送 テ レ ビ			

(16) 中国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	檜 山 欣 成	テ レ ビ 新 広 島	運 営 委 員	大 島 進	N H K 広 島
庶 務 幹 事	宮 尾 淳 一	広 島 大 学	〃	高 橋 賢	広 島 市 立 大 学
〃	湯 木 慎 也	N H K 広 島	〃	林 田 秋 二	山 口 朝 日 放 送
会 計 幹 事	加 藤 雅 也	広 島 テ レ ビ	〃	佐 原 浩 昭	R S K 山 陽 放 送
〃	神 崎 美 雪	N H K 広 島	〃	小 平 俊 也	広 島 ホ ー ム テ レ ビ
運 営 委 員	高 尾 忍	山陰中央テレビジョン放送	〃	山 内 仁	岡 山 県 立 大 学
〃	原 彰 宏	中国総合通信局	〃	鈴 木 健 太 郎	テ レ ビ 山 口
〃	高 橋 秀 明	日本海テレビジョン放送	〃	尾 関 孝 史	福 山 大 学
〃	徳 永 好 一	NHKテクノロジーズ	〃	恵 良 勝 治	山 口 放 送
〃	谷 岡 昭 彦	中 国 放 送	〃	小 原 敏 郎	岡 山 放 送
〃	道 西 博 行	岡 山 理 科 大 学	〃	青 山 秀 章	山 陰 放 送

(17) 四国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	野 中 宏 次	テ レ ビ 愛 媛	運 営 委 員	乗 松 義 弘	南 海 放 送
庶 務 幹 事	重 岡 知 憲	N H K 松 山	〃	島 矢 勝 久	あ い テ レ ビ
〃	白 石 敦 俊	テ レ ビ 愛 媛	〃	今 西 勝 規	愛 媛 朝 日 テ レ ビ
会 計 幹 事	木 下 雄 介	N H K 松 山	〃	松 岡 茂 茂	高 知 放 送
運 営 委 員	神 田 剛	総務省四国総合通信局	〃	横 山 雄 一	テ レ ビ 高 知
〃	神 田 剛	総務省四国総合通信局	〃	積 田 穰	高 知 さ ん さ ん テ レ ビ
〃	岡 本 好 弘	愛 媛 大 学	〃	原 田 祐 紀 也	四 国 放 送
〃	奥 浦 孝 彦	N H K 松 山	〃	岩 井 芳 敏	西 日 本 放 送

(18) 九州支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	坂 井 剛	九 州 朝 日 放 送	運 営 委 員	加 藤 剛	NHKテクノロジーズ
庶 務 幹 事	松 岡 剛 志	九 州 産 業 大 学	〃	萩 原 秀 一 郎	N T T 西 日 本
〃	大 淵 健 児	N H K 福 岡	〃	岡 崎 浩 幸	九 州 総 合 通 信 局
会 計 幹 事	戸 高 昭 二	福 岡 放 送	〃	筒 口 幸 拳	崇 城 大 学
〃	松 本 勝 宏	N H K 福 岡	〃	佐 藤 雄 孝	熊 本 放 送
運 営 委 員	井 上 光 平	九 州 大 学	〃	藤 本 孝 一	長 崎 大 学
〃	芹 川 聖 一	九 州 工 業 大 学	〃	松 崎 功 文	長 崎 放 送
〃	杉 浦 孝 直	N H K 福 岡	〃	渡 邊 睦 陸	鹿 児 島 大 学
〃	山 下 清 海	R K B 毎 日 放 送	〃	小 川 重 訓	南 日 本 放 送
〃	岩 屋 宏 幸	テ レ ビ 西 日 本	〃	春 口 誠 弘	宮 崎 放 送
〃	小 野 晃 生	T V Q 九 州 放 送	〃	後 藤 昌 弘	大 分 放 送

(19) 技術委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	伊東 晋	東京理科大学	委員	野中 雄一	日立
幹事	滝嶋 康弘	KDDI総合研究所	〃	篠原 弘純	パナソニックコネクト
〃	倉掛 卓也	N H K	〃	秋田 純隆	金沢大学
〃	笹出 晋也	フジテレビ	〃	石鍋 賢一	東北大学
特別理事	吉田 俊之	福井大学	〃	町田 恭司	N H K
委員	山上 誉伸	N H K	〃	斎藤 恭岳	N H K
〃	河原 伸吉	A G C	〃	永井 大之	東京工業大学
〃	佐藤 誠也	N H K	〃	新井 啓久	日本工業大学
〃	児玉 和也	日本テレビ	〃	名手 哲英	東京工芸大学
〃	小林 達也	国立情報学研究所	〃	上田 久哲	パナソニック
〃	小平 雅也	KDDI総合研究所	〃	掛谷 三紀	筑波大学
〃	金森 聡史	TBSテレビ	〃	角田 貢	日本体育大学
〃		N E C			

<研究委員会>

(20) 情報センシング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	秋田 純一	金沢大学	委員	八重樫 浩	ティアテック
副委員長	池辺 将一	北海道大学	〃	杉山 行信	浜松ホトニクス
〃	小室 和孝	埼玉大学	〃	関根 久征	キヤノン
〃	下村 弘郎	立命館大学	〃	樽木 雅人	東芝デバイス&ストレージ
〃	香川 景一	静岡大学	〃	大澤 俊徳	オリンパスメディカルシステムズ
〃	徳田 嵩人	東京工業大学	〃	大澤 大介	シーマイクロ
〃	黒田 理也	東北大学	〃	藤澤 守義	三菱電機
〃	北村 和也	N H K	〃	佐藤 法相	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	山下 雄一郎	T S M C	〃	立川 義萬	ニコン
〃	大倉 俊介	立命館大学	〃	韓 相啓	ブリルニクスジャパン
〃	竹本 良章	メムスコ	〃	安富 啓太	静岡岡大学
〃	峰尾 圭忠	N H K	〃	山田 翔太	パナソニックインダストリー

(21) メディア工学研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	新井 啓之	日本工業大学	委員	入部 百合	愛知県立大学
副委員長	村松 正吾	新潟大学	〃	平野 晃昭	関東学院大学
〃	望月 貴裕	N H K	〃	細井 利憲	N E C
〃	東海 彰吾	福井大学	〃	人見 康宣	ソニーセミコンダクタソリューションズ
委員	田良 周平	NTTコミュニケーションズ	〃	小池 崇文	三菱電機
〃	石井 大祐	富士通研究所	〃	小幡 朋和	コニカミノルタ
〃	奥田 正浩	北九州市立大学	顧問	小春 日正	作新学院大学
〃	金成 昌慧	宇都宮大学	〃	大塚 佳一	鹿児島大学
〃	多田 義満	近畿大学	〃	外村 伸志	龍谷大学
〃	青木 康一	慶應義塾大学	〃	貴家 仁一	東京都立大学
〃	伊藤 圭一	東北大学	〃	上倉 俊和	東京工芸大学
〃	河村 修弘	KDDI総合研究所	〃	吉田 美紀	福井大学
〃	渡辺 貴弘	拓殖大学	〃	村上山 紀男	愛知県立大学
〃	小川 佐子	北海道大学	〃	長谷川 憲	北海道大学
〃	曾我 賢造	龍谷大学	〃	田川	東京都立大
〃	五十	東芝			

(22) マルチメディアストレージ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	町田賢司	N H K	委員	多田行伸	日立LGデータストレージ
幹事	武者敦史	富士フイルム	〃	関口通	NECネットエスアイ
〃	吉村哲典	秋田大学	〃	大竹充光	横浜国立大学
〃	加藤大正	N H K	〃	大田中輝	九州大学
〃	文仙俊	福岡大学			

(23) 情報ディスプレイ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	石鍋隆宏	東北大学	委員	佐藤弘人	N H K
幹事	山中北裕	J O L E D	〃	沼尾孝次	東北大学
〃	村口篤志	静岡大学	〃	藤掛英史	N T T
〃	山口雅浩	東京工業大学	〃	小平芳朗	N H K
〃	吉田茂人	シャープ	〃	根野邦一	静岡大学
〃	奥山健太郎	ジャパンディスプレイ	〃	長尾陽一郎	三菱電機
〃	薄井武順	N H K	〃	関根章裕	八戸工業大学
〃	長谷川拓哉	東北大学	〃	小牧秀廣	パナソニック
〃	樋口昌芳	物質・材料研究機構	〃	宮下哲哉	東北工業大学
〃	木工幸寛	工学院大学	〃	栗田泰市郎	N H K
委員	木村宗弘	長岡技術科学大学	〃	伊藤啓二	N H K
〃	馬場雅裕	東三菱電機	〃	石井和昇	N H K
〃	奥田悟好	N H K	〃	田谷潤樹	N H K
〃	藤崎圭一	日立	〃	田昇一	三菱電機
〃	別井圭宜	日立	〃		東芝
〃	中嶋立昌	N H K	〃		新神戸電機
〃	足立昌哉	ジャパンディスプレイ			

(24) 放送技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	斎藤恭一	N H K	(無線光)	岡田実	奈良先端科学技術大学院大学
副委員長	村田英一	京都大学	〃	荻原秀治	日本電業工作
〃	斉藤一	テレビ東京	〃	金森聡史	N E C
幹事	神原浩平	N H K	〃	グアンチャイユ	長崎大学
幹事補佐	鈴木村高幸	テレビ朝日	〃	齊藤一幸	千葉大学
〃	松崎敬文	N H K	〃	三枝健二	日本大学
幹事	宮野真由子	東芝インフラシステムズ	〃	田邊暁弘	N T T
〃	大内幹博	パナソニックホールディングス	〃	仲田樹直	日立国際電気
幹事補佐	榎本芳栄	T B S テレビ	〃	前田樹猛	住友電気工業
幹事員	水本哲彦	東京工業大学	〃	丸山靖隆	古河電気工業
委員	糸原達彦	三菱電機	(放送現業)	橋本宏誠	フジテレビ
(放送・通信方式)	塩川茂樹	神奈川工科大学	〃	筒佐藤	名古屋テレビ
〃	杉山中賢二	成蹊大学	〃	小野木政次	読売テレビ
〃	田井弘之	N H K	〃	三橋俊一郎	N H K
〃	筒濱啓大	北海道大学	〃		日本テレビ
〃	福留大貴	東京工業高等専門学校			
		N H K			

(25) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	名手久貴	東京工芸大学	委員	久保尋之	千葉大学
幹事	岡市直賢一	N H K	〃	森谷友昭	東京電機大学
〃	田中賢一	長崎総合科学大学	〃	中山裕樹	朝日放送
〃	杉本志織	N T T	〃	三ッ峰秀健	N H K
委員	Roberto Lopez-Gullier	立命館大学	顧問	山口杉信	日本大学
〃	小黒久史	凸版印刷	〃	小佐藤甲	京都市大学
〃	小白石雄	東邦大学	〃	吉川幹夫	湘南工科大学
〃	檜山茂雄	多摩美術大学	〃	新高谷時郎	日本大学
〃	藤井祐佳	テレビ東京	〃	高橋信彦	東邦大学
〃	田中敏光	名城大学	〃	〃	東京電機大学
〃	竹内幸一	電気通信大学	〃	〃	京都市大学
〃	林正樹	ウプサラ大学			

(26) 立体映像技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	掛谷英紀	筑波大学	幹事	藤井俊彰	名古屋大学
副委員長	高木康博	東京農工大学	〃	三科智之	N H K
幹事	上原伸一	A G C	〃	山本健裕	徳島大学
〃	氏家弘裕	産業技術総合研究所	委員	山本真宏	宇都宮大学
〃	圓藤知博	長岡技術科学大学	〃	河北村真治	大阪工業大学
〃	小池崇文	法政大学	〃	高橋秀也	N T T ドコモ
〃	陶山史朗	宇都宮大学	顧問	本田捷夫人	大阪市立大学
〃	高田英明	長崎大学	〃	奥井誠	本田ひかり技研
〃	堤公孝	N T T			情報通信研究機構

(27) ヒューマンインフォメーション研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	原澤賢充	N H K	〃	小濱剛	近畿大学
幹事	相田紗織	山口大学	〃	森川大輔	富山県立大学
〃	荻谷光晴	神奈川大学			

(28) アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	上田哲三	パナソニック	委員	中村裕一郎	目白大学
副委員長	金藤正直	法政大学	〃	難波和秀	流通経済大学
幹事	山田一人	法政大学	〃	末松千尋	京都大学
幹事	石綿宏	フレッジテクノロジー	〃	本田新九郎	N T T
〃	都築五明	01高知ブースター	〃	平田貞代	芝浦工業大学
委員	善本哲夫	立命館大学	〃	松本修一	日本ケーブルラボ
〃	石井正純	A Z C A	〃	山本忠幸	いちか総合研究所
〃	江藤之雄	一橋大学	〃	横山孝文	摂南大学
〃	榎本剛史	日本コンテンツオルガン	顧問	Richard B. Dasher	Stanford University
〃	岡田厚	岡田工事部	〃	加納剛太	高知工科大学
〃	長内厚子	早稲田大学	〃	倉重光宏	高知工科大学
〃	加賀有津	大阪大学	〃	富沢真治	高知工科大学
〃	春日正男	作新学院大学	〃	平野哲一	福知山公立大学
〃	片山誠司	住友電気工業	特別委員	樺澤紘一	大阪大学
〃	鈴木祐子	次世代メディア研究所	〃	小川紘一	東京大学
〃	田路則吉	法政大学		Carlos Pazde Araujo	コロラド大学
〃	谷岡健吉	ストーニーブルック大学			

(29) 年次大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長 事	岩 城 正 和	N H K	委 員	グアンチャイユー	長 崎 大 学
幹	倉 掛 卓 也	N H K	〃	當 山 俊 一 郎	日 本 テ レ ビ
〃	川 田 亮	KDDI 総合研究所	〃	大 内 幹 博	パ ナ ソ ニ ッ ク
〃	徳 田 一 崇	東 京 工 業 大 学	〃	大 森 川 大 輔	富 山 県 立 大
〃	志 水 信 哉	N T T	〃	望 月 大 貴	N H K
〃	橋 本 直 己	電 気 通 信 大 学	〃	小 池 貴 崇	三 菱 電 機
委 員	松 尾 英 一	N H K 仙 台	〃	白 石 崇 路	東 邦 大 学
〃	峰 尾 圭 忠	N H K	〃	石 綿 宏 明	フ レ ッ ジ テ ク ノ ロ ジー
〃	樋 口 昌 芳	N I M S	〃	石 高 田 英	長 崎 大 学
〃	吉 村 哲 次	秋 田 大 学	〃	高 角 田	日 本 大 育 大 学
〃	田 中 祥 次	放送衛星システム			

(30) 冬季大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長 事	苗 村 健	東 京 大 学	委 員	田 邊 暁 弘	N T T
幹	笹 出 晋	フ ジ テ レ ビ	〃	當 山 俊 一 郎	日 本 テ レ ビ
〃	山 下 誉	N H K	〃	鈴 村 高 幸	テ レ ビ 朝 日
〃	和 泉 田 智	日 本 テ レ ビ	〃	荻 谷 光 晴	神 奈 川 大 学
〃	上 原 伸 一	A G C	〃	田 良 島 周 平	NTTコミュニケーションズ
委 員	河 合 吉 彦	N H K	〃	五 十 川 賢 直	東 芝
〃	北 村 和 也	N H K	〃	岡 市 綿 人	N H K
〃	薄 井 武 順	N H K	〃	石 綿 公 宏	フ レ ッ ジ テ ク ノ ロ ジー
〃	武 井 敦 史	富 士 フ ィ ル ム	〃	堤 田 孝 貢	N T T
〃	糸 原 達 彦	三 菱 電 機	〃	角 田	日 本 大 育 大 学

(31) 編集委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
編集長 副委員長 〃 編集幹事 (企画担当)	谷口行信	東京理科大学	編集幹事 (企画担当)	寺岡丈博	拓殖大学
	橋本直己	電気通信大学		戸泉川貴孝	N E C
	河相田吉沙	N H K		中川孝靖	N H K
	相田羽英	山口大学		中田沼久昌	N E C
	飯塚智也	JVCケンウッド		中村友晴	ソニー
	井須芳美	総務省		樋口彦玄	大阪大学
	→木焦火	三菱電機		藤田徹	大阪電気通信大学
	泉内田修	テレビ東京		松延剛子	パナソニックホールディングス
	遠藤修晴	TBSテレビ		森山洋	東京工芸大学
	加藤智邦	テレビ朝日		山吉田	東京大学
久保田崇 小池島森 小笹川木 佐々木藤 佐繁田木 白高張中	河原智邦	KDDI総合研究所	(海外文献部門)		
	→徳永将	宇都宮大学	部門委員長	西村仁志	KDDI総合研究所
	久保田崇	富士フイルム	部門副委員長	片野祐太郎	N H K
	小池島森	TVS REGZA	部門委員	杉野裕幸	TBSテレビ
	小笹川木	TVS REGZA		沢天龍	三菱電機
	佐々木藤	中央大学		本卓史	東芝インフラシステムズ
	佐繁田木	法政大学		涌波光喜	情報通信研究機構
	白高張中	フジテレビ	(ニュース部門)		
		NHK→NHK-EP	部門委員長	浜田宏一	帝京大学
		奈良先端大学院大	部門副委員長	中野豪	日本テレビ
信己彦織樹也美 炎希慎二久慧 行彦之彰文裕 康隆久人功司 宏夏健	信己彦織樹也美	N H K	部門委員	新熊丸塚	N E C
	炎希慎二久慧	N H K			N H K
	行彦之彰文裕	大阪大学			KDDI総合研究所
	康隆久人功司	大葉大学			
	宏夏健	N T T			
		東京都市大学			
		シヤー			

(32) 論文委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員 長 アドバイザー 幹 事 員 委 員	藤 井 俊 彰 谷 口 行 信 安 藤 慎 吾 河 合 吉 彦 宮 崎 勝 司 大 川 裕 司 加 藤 晴 久	名 古 屋 大 学 東 京 理 科 大 学 湘 南 工 科 大 学 N H K N H K N H K K D D I 総合研究所	(英語論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 員	藤 井 俊 彰 大 川 裕 司 加 藤 晴 将 飯 山 晃 誠 伊 丹 一 郎 井 手 典 文 江 上 淳 弘 太 田 貴 英 小 川 紀 郎 掛 谷 二 郎 甲 藤 澤 之 明 酒 田 靖 佳 玉 村 伸 志 外 村 仁 志 西 村 直 子 新 橋 本 真 長 谷 山 美 紀 人 見 康 宣 三 科 智 彦 美 濃 導 一 村 田 英 昌 柳 原 広 彦 山 崎 俊 彦 Nam Ik Cho Alexamder G. Hauptmann Benoit Huet Tae Kyoan Kim Jianquan Liu Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Georges Quenot Stefan Rueger Ming-Hsuan Yang	名 古 屋 大 学 N H K K D D I 総合研究所 京 都 大 学 東 京 理 科 大 学 名 古 屋 大 学 近 畿 大 学 奈良先端大学院大学 北 海 道 大 学 筑 波 大 学 早 稲 田 大 学 大 阪 工 業 大 学 北 九 州 市 立 大 学 龍 谷 大 学 K D D I 総合研究所 武 庫 川 女 子 大 学 K D D I 総合研究所 北 海 道 大 学 ソ ニ ー N H K 京 都 大 学 京 都 大 学 K D D I 総合研究所 東 京 大 学 Seoul National University Carnegie Mellon University E u r e c o m E T R I N E C City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University Laboratory of Informatics of Grenoble The Open University University of California Merced
(和文論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 員 委 員	藤 井 俊 彰 安 藤 慎 吾 宮 崎 純 勝 秋 田 一 悟 朝 倉 慎 一 上 原 伸 一 大 竹 充 圭 河 村 文 人 京 田 尋 之 久 保 崇 文 小 池 崇 一 杉 田 純 一 田 中 賢 一 玉 田 明 弘 筒 井 裕 貴 戸 泉 崇 史 德 外 篤 志 中 村 誠 明 松 村 哲 彦 室 井 玄 一 本 村 一 人 山 田 修 渡 邊	名 古 屋 大 学 湘 南 工 科 大 学 N H K 金 沢 大 学 N H K A G C 横 浜 国 立 大 学 K D D I 総合研究所 シリコンスタジオ 千 葉 大 学 法 政 大 学 東京医療保健大学 長崎総合科学大学 北 九 州 市 立 大 学 北 海 道 大 学 N E C 東 京 工 業 大 学 宇 都 宮 大 学 静 岡 大 学 N T T N H K N H K 法 政 大 学 拓 殖 大 学			

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 代表幹事	岩城正和	N H K K D D I 総合研究所	委 員	佐藤 誠一	日 本 テレ ビ 東 京 学 校
幹 事	川田 行信	東 京 理 科 大 学	〃	秋田 純隆	テ レ ビ 大 学
〃	山谷 行哉	N H K	〃	石 鍋 賢 宏	東 北 大 学
〃	志水 信一	N T T	〃	町 田 恭 司	N H K
〃	上原 伸也	A G C	〃	斎 藤 恭 一	N H K
〃	倉掛 卓司	N H K	〃	永 井 岳 大	東 京 工 業 大 学
〃	笹橋 晋己	フ ジ テ レ ビ	〃	新 井 啓 久	日 本 工 業 大 学
〃	河本 直吉	電 気 通 信 大 学	〃	新 手 田 哲 貴	東 京 工 芸 大 学
〃	徳田 彦崇	N H K	〃	上 田 哲 三	パ ナ ソ ニ ッ ク 学 校
〃	和泉 智志	東 京 工 業 大 学	〃	掛 谷 英 紀	日 本 体 育 大 学

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部会長 代表幹事	佐藤 誠	日本テレビ	委 員	新井 啓之	日本工業大学
幹 事	倉掛 卓也	N H K	〃	手久貴	東京工芸大学
〃	川田 亮一	KDDI総合研究所	〃	上田 哲三	パナソニック
委 員	山 下 誉	N H K	〃	掛谷 英紀	筑波大学
〃	菅野 勝一	KDDI総合研究所	〃	角田 貢	日本体育大学
〃	斉藤 晋司	テレビ東京	〃	内田 慎	TBSテレビ
〃	笹出 智志	フジテレビ	〃	小島 敏裕	フジテレビ
〃	和泉 田智	日本テレビ	〃	天野 徹	フジテレビジョン
〃	関根 寛	キヤノン	〃	我山 真一	パイオニア
〃	石鍋 隆宏	東北大学	〃	蝶野 慶	N E C
〃	町田 賢司	N H K	〃	相羽 英樹	JVCケンウッド
〃	ゲンチャイユ	長崎大学	〃	大西 浩之	パナソニックコネクト
〃	筒井 宏隆	名古屋テレビ	〃	土居 清之	日本テレビ
〃	福留 大貴	N H K	〃	宮崎 靖	テレビ朝日
〃	永井 岳大	東京工業大学	堂	佐藤 誠	テレビ東京

[illegible]

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長 会幹事 代表幹事 委員	倉掛卓也 笹出晋 川田亮 山下水 志橋信 河本直 徳合吉 秋田純	N H K フ ジ テ レ ビ K D D I 総合研究所 N H K N T T 電 気 通 信 大 学 N H K 東 京 工 業 大 学 金 沢 大 学	委 員	石文鍋隆 仙正俊 藤恭一 井岳大 井啓大 新井啓大 名久貴 上田哲 掛谷英 角田貢	東福北大大 N H K 東京工業大 日本工業大 東工大芸大 パナソニッ 筑波大 日本体育大

[illegible]